
アンダー オーバー

若いマジシャンとそのご両親のために

ジョシュア・ジェイ著

アンダー / オーバー

若いマジシャンとそのご両親のために

原作：ジョシュア・ジェイ

デザイン：アンディ・グラッドウィン

カバーデザイン：ブライアン・マクエルバイン

翻訳：米津 健一

VANISHING INC.
www.vanishingincmagic.com

© Vanishing Inc, December 2008

日本語版製作 スクリプト・マヌーヴァ

本書の内容は保護されており、著者の書面による承諾がない限り、本書の一部または全部を複製することはできません。

目次

謝辞	5
----------	---

アンダー

マジシャンを目指している若い皆さんへ	8
どんなトリックを覚えたらいいのでしょうか？	11
でも本当のところ、どんなトリックを覚えたらいいのでしょうか？	12
ストリートマジシャンを目指したほうがいいのでしょうか？	14
台詞はどうしたらいいのでしょうか？	15
自分の年齢を前面に押し出したほうがいいのでしょうか？	18
どんな服装をすればいいのでしょうか？	19
私は女の子です。私でもマジシャンになれるのでしょうか？	20
先生は必要なのでしょうか？	21
誰にアドバイスを受けるべきでしょうか？	22
自分の演技に対する支援はどこで受けることができますか？	24
何を買えばいいのでしょうか？	25
本とビデオはどちらがいいのでしょうか？	30
マジックはいつ・どこで演じたらいいのでしょうか？	32
マジックで女の子にモテるようになりますか？	33
学校でマジックを演じたほうがいいのでしょうか？	34
嫌がらせをする人にはどのように対処すればいいのでしょうか？	36
下品な言葉やジョークはどこまでのレベルなら許されるのでしょうか？	37
エゴにはどのように対処すればいいのでしょうか？	38
マジックのコンテストに出場したほうがいいのでしょうか？	39

何か私にトリックを教えていただけませんか？

フォールストランスファー	44
ブレスレス	46
フォールストランスファーの動き	47

クロスカットフォース	48
コール・ザ・ウィザード	50
インフレーテッド・トランスポジション	51
フラッシュカード	57
「年齢が若いこと」と「精神的に若いこと」はどう違うのでしょうか？	61

オーバー

若いマジシャンを抱えるご両親へ	64
マジックの良さは一体どこにあるのでしょうか？	66
マジックにはどれくらいお金がかかるのでしょうか？	68
うちの子が上手くなるためにはどのように支援したらいいのでしょうか？	70
どうしたらうちの子にショーの依頼がくるようになるのでしょうか？	71
どんな人をエージェントにしたらいいのでしょうか？	72
ショーの送り迎えはどうすればいいのでしょうか？	73
マジックショーの代金として、いくら請求したらよいのでしょうか？	74
うちの子のショーにも契約書を用意すべきでしょうか？	76
うちの子にもエージェントをつけたほうがいいのでしょうか？	80
うちの子がマジックに火を使いたいそうなのですが、認めるべきでしょうか？	81
マジックの損害を補償してくれる保険があるというのは本当でしょうか？	83
活動を支援してくれる業界団体はマジック界にもあるのでしょうか？	84
うちの子がマジックコンベンションに参加したがつているのですが、そのために学校を休ませてもいいのでしょうか？	85
うちの子はマジックキャンプを気に入るでしょうか？	86
うちの子にどれくらい支援の手を差し伸べるべきでしょうか？	91
訳者あとがき	92

謝辞

私は以前より、若いマジシャンに向けてマニュアルを作り、それを無料で提供したいと考えていました。マジシャンであり続けるのはとても難しいことです。また、少年少女の心を忘れないでいることも同じように難しいことでしょう。しかしそのどちらも、様々なチャンスをもたらすこともあれば、挑戦しがいのあることでもあります。マジックを始めてから、私は家族や友人、それに多くのマジシャンから、厚い支援を受けてきました。でも、今までそれらに対して金銭的な見返りを求められたことはありません。だから私もこの本を無料で提供をしたいと考えました。おそらく何年かすると、あなたも成熟した大人のパフォーマーとなり、若い人たちからアドバイスを求められる立場になるでしょう。私がこの本で情報提供したのと同じように、あなたもご自身で学んだことを他の人と共有していただければと思います。

多くのマジシャンが協力してくれたおかげで、この「アンダー／オーバー」という本をより良いものにすることができました。ダニー・コール、アンディ・グラッドウィン、デビッド・オリバー、マイク・シーガル、ジョエル・ワード、クリスティ・トグチ、ジェフ・ライボウィッツ、デビッド・パールなど、輝かしいキャリアを誇るマジシャンが協力してくれました。この本では皆さんにマジックの素晴らしさを伝えてくれています。彼らは良き相談相手でもあり、この本に参加してくれたことを私は光栄に思います。ロッド・ドワロン、ラジャ・マッドホック、デビッド・パールらは、私の原稿をあらゆる面から校正してくれました。皆さん、どうもありがとう。私のビジネスパートナーであるアンディ・グラッドウィンは、この本が全く利益のでないアイデアだったにもかかわらず、とても乗り気になってくれました。彼は編集を担当し、この本のデザインとレイアウトを素晴らしい形で仕上げてくれました。彼のおかげで「アンダー／オーバー」を若いマジシャンに届けることができるようになったと言っても過言ではありません。

また、ニューヨークのアルバート・ラッシャーにも感謝しています。彼は若いマジシャンのためにマジッククラブを主宰し、毎月のようにレクチャーやショー、資金集めのパーティーやワークショップなどを開催しています。精力的でかつ私利私欲のない人物であり、大勢の少年少女たちに対して、マジック界への道しるべとなってくれています。アルバートは、彼のマジッククラブにおいて、この「アンダー／オーバー」を評価する場を設けてくれました。クラブの子供たち（およびそのご両親たち）に原稿を読んでもらうことで、貴重なフィードバックを得ることができました。この本が無事に日の目をみることになり、アルバートのマジッククラブの皆さんにはと

ても感謝しています。

最後に、私の両親にも感謝を伝えたいと思います。「アンダー／オーバー」の大部分は、マジックをする上で子供たち自身がコントロールすることができる課題について書かれています。しかし、子供たちには自分の両親をコントロールすることはできず、子供たちが十分な支援を受けられるかどうかはそご両親にかかっています。私の母と父はとても協力的でした。あらゆる面で支援してくれる一方で、決して何かを強制することはありませんでした。父は決してこの本を読んでもくれようとしませんでした、おそらく気に入ってくれる内容だと信じています。また、母は今も昔も私の一番のサポーターです。2人にはとても感謝しています。

アンダー/オーバー

マジシャンを目指している若い皆さんへ

「この本に対する一定のニーズがあったからこそ、私はこの本を書いたのだ。」
—ダリエル・フィツキー『ショーマンシップ・フォー・マジシャンズ』

何年も前のマジックコンテストでのこと。そのコンテストには11歳の少年が出場していました。彼は一生懸命に練習をし、とても強烈なマジックを演じました。しかし彼は観客を沸かせることはできませんでした。その時の演技について、私が記憶している範囲でご説明いたしましょう。

まず始めに、彼は難しいコインマジックを演じました。そのマジックを銀行での体験を交えながら演じていました。「そして窓口の人がこう言って…だから僕はその人にこう言って…それで僕は弁護士のところに行って…」という感じです。次に彼はある女性を舞台に上げました。カードにサインをしてもらったときに、「一緒に電話番号と連絡のとれる時間帯も書いておいてもらえますか？」なんていうジョークも口にしました。そして最後はコートのポケットから革の財布を出してきて、クレジットカードの間からサインカードを取り出してみせました。

子供が銀行口座を作ったり、弁護士と話をしたりすることなんてあるでしょうか。ましてや中年の女性に安っぽい台詞を言うことなんてありえません。11歳の少年なんてクレジットカードを持つこともなければ、財布すら持ち歩くこともないでしょう。私の実体験からしても、11歳の頃に女の子と一緒に遊ぶなんて考えられません。その子の演技は子供のイメージとはかけ離れ、単に大人の振りをしているだけでした。

2、3年後、同じ男の子がまた大会に出場しました。彼は13歳になり、少し背も高くなりました。甲高い声を出しましたが、今回は同じ年頃の子供と同じようなカッターシャツを着ていました。トランプを使う代わりにベースボールカードを使い、コインの代わりにレゴのブロックを使いました。演技のあるポイントで、彼は自分の声を声変わりさせました。観客たちも一斉に笑い出します。少年は



自分の声について、「僕の声が低くなったら、とても凄いことが起こりますよ」と言いました。それからは部屋中の人を大爆笑させ、大いに盛り上げることができました。彼がウケたのは、彼のショーに嘘がなく、現実的で似合っていたからです。つまり彼はたった2年間で自分の年齢に合った演技ができるようになり、最終的にはその大会で優勝することができました。

実を言うと、ここの「彼」とは私のことです。その当時、私はあなたが直面するのと同じ課題に取り組みました。その対処方法はこれからしっかりお話ししていきたいと思います。

あなたは一人のマジシャンであると同時に、一人の若者です。観客にはあなたが何歳かということはすぐに分かってしまいますし、それは仕方がないことです。あなたを見た人は「あの子はまだ小学生みたいだね」とささやいているかもしれません。また、「どれくらいの腕前か見てやろうじゃないか」なんて思っている人もいることでしょう。そこでこの本の前半では「アンダー」、つまり18歳以下の方を対象に、自分の年齢に見合った演技ができるようになる方法をお教えします。

そして、この本の後半は18歳を「オーバー」した方、つまりあなたのご両親に読んでいただきたい内容になっています。もちろん後半部分をあなたの方が読んでいただいても構いません。私は世のご両親たちから、「マジックはいい趣味なの？」とか「うちの娘がマジシャンになるのは早すぎるんじゃないか？」といったことを何度も尋ねられた経験があります。「あなたからマジックを取ったら何が残るの？」なんていう質問をもらったこともあって、これは個人的にとっても印象に残っています。でも、私はあなたの味方です。後半の「オーバー」の部分では、マジックの現実的な側面をお伝えします。（マジック大会のために学校を休んでも構わないと書いている箇所もありますよ。）

次のページから、私が何度も尋ねられてきた質問に対して、できる限り正直にお答えしていきたいと思います。ただし、「私はマジシャンになるべきなののでしょうか？」という質問に対してだけはお答えできません。あなたはこの問いにためらいもなく答えることができますか？ もし答えられないとしたら、マジックに真剣に取り組んでいないということなのでしょう。まあ、これは誰にでも当てはまることでもありませんが。

マジックを間違った動機から始めてしまって、途中で止めてしまう若者が大勢います。タネを知りたくてマジックを始めた人もいれば、タネが分かれば簡単にできると思って始める人もいます。女性とデートするためという人もいれば、見栄えのいい道具に魅了されたからという人もいます。でも、こういった目的が実現することはありません。女の子やバスケットボールへ興味を持った子供たちは、マ



ジックからどんどん遠ざかっていきます。要するに使わないマジック道具を入れるスペースが限られているのです。ただし、私たちのように、マジックの価値を理解して、趣味として続けている人も少なからずいます。

あなたもきっと私たちの仲間なのではないでしょうか。あなたもマジックの価値を理解し、心から好きになってくれる人なのではないかと私は信じています。これからあなたとたくさんのお話ができるのを、私はとても楽しみにしています。

ジョシュア・ジェイ
ニューヨークにて
2008年9月

どんなトリックを覚えたらいいのでしょうか？

世の中にはたくさんのトリックが存在します。しかし、きちんとしたマジシャンになるためにはその中の一つだけ、しかも強烈なマジックを一つ覚えるだけで十分だと私は考えています。私にとってそのマジックは「アウト・オブ・ディス・ワールド」*1 というマジックでした。新しいトリックを覚えたいという欲求はとても自然なことですし、私も一つでも多くのトリックを覚えたいと常に思っています。でも、その欲求は時に危険でもあります。例えば華やかな広告や動画などに影響を受け、リリースされるマジック製品をどんどん購入しても、実際にはほとんど演じることができない人がいます。決してそのようなマジシャンになってはいけません。そうではなくてポケットの中にある物だけで 20 分のショーができたり、カバンの中にある物だけで部屋中の人々を楽しませたりすることができるようなマジシャンになりましょう。

マジックを始めて 1 年も経たないうちに、私は変わった趣味について学校の同級生たちから噂されるようになりました。「あの子を見て！」とか「彼はマジックができるんだ」などと、どこからともなく噂されるようになりました。小学校 4 年生のことですが、ランチタイムに私のところへ大勢の子供たちが集まり、マジックを見せてくれと頼まれたことがありました。私は笑顔で「今日はマジック道具を持ってないんだ」と答えました。すると「ここにあるもので何かやって見せてよ」と言われたのです。この時、マジック道具を持ち歩いていなければ何もマジックをできないことに気づき、とても大きなショックを受けました。

若いマジシャンの中には、できもしないマジックグッズを道具箱やクローゼットに抱えている人がたくさんいます。それではマジックを演じることではなく、道具を収集することやタネを知ることが趣味と化してしまっています。私が思うに、タネをいろいろ知ろうとするよりも、今あるマジックを演じるために時間をかけるべきです。そして自分が他人から期待されているとおり、何もマジック道具がなくても、24 時間いつでもマジックができるマジシャンだという心づもりをしておきましょう。なぜなら、もし自分がマジシャンだということが人に知られてしまうと、すぐさま「何かやって見せてよ」などと言われるからです。

*1 父は私に現象を見せてくれましたが、決してタネは教えてくれませんでした。私はこのマジックに完全に騙されました。これはポール・カーリーが考案したもので、1942 年に発表されました。観客が裏向きでカードを 2 つに配っていきませんが、それぞれ色によって分離してしまうというマジックです。

でも本当のところ、どんなトリックを覚えたらいいのでしょうか？

どんなトリックを覚えるべきかという、それはあなた次第です。でもマジックを即興で、しかも自然に演じなくてはならない状況がたくさん起こり得るということは、是非頭の片隅に入れておいてください。あなたが若ければ若いほど、人はあなたの都合や気分などに配慮はしてくれません。不公平かもしれませんが、これが現実です。一人の大人として、私なら「申し訳ないですが、今は都合が悪くて。次に会ったときにお見せします」などと言って、リクエストをお断りすることもあります。もっと若い頃は学校の先生や家族にマジックをするように強いられたことがありますし、私の趣味について耳にした見知らぬ人にまでマジックをさせられたこともあります。このような状況に対処するためには、事前に準備しておく以外にありません。では一体どうすればいいのでしょうか。

自然と演技に取り入れられる物で、持ち運ぶことができるものが周りにはきっとあるはずです。もしくは、いつも持ち歩いていて、演技に使えるような物が何かあるのではないのでしょうか。硬貨やお札を2～3枚、鉛筆、携帯電話などをお持ちではありませんか。私が8歳から15歳の頃は、こういった日用品を使ってマジックをしていました。ただし、当時、携帯電話は持っていませんでした。昔は携帯電話を持っているのは大人だけでしたが、今は子供でも携帯電話を持っているのは一般的になりましたし、素晴らしいマジックの機会を提供してくれます。これから、そのような日用品を使ったマジックをご紹介します。

スロー・モーション・ビル・トランスポ

これはU・F・グラントが考案した古典的なマジックです。1ドル札を折り曲げていき、それを友人から借りた5ドル札と入れ替えてしまします。様々なやり方がありますが、全くの即席で行う方法をトリックの章で解説いたします。

ミスレッド

ティモシー・ウェンクが考案したマジックで、HBの鉛筆を借りたお札に貫通させます。（これはHB鉛筆の使い方として、全国共通テストを解くよりもはるかにエキサイティングですね。）若い頃、デビッド・カッパーフィールドがこのマジックを全国ネットの番組で演じているのを観て、私はとても興奮しました。このトリックでは鉛筆がお札を溶けるように抜けていきます。小さいギミックを使いますが、とてもしっかりしていて、黄色いHB鉛筆にフィットするようになっています。パニッシング・インクのようなマジックショップで購入することができます。

リテンション・パス

これは即席マジックに必要な基本技法です。コインでこの技法を行うことができますし、ペーパークリップや砂糖の小袋でも構いません。学校やレストランや自宅に置いてある小さな物であれば何でも構いません。例えば 25 セント硬貨をこの技法で消してしまい、友達の耳から取り出してみせます。もう一度消してみせ、今度は友達の手から取り出します。こういった 30 秒くらいのちょっとしたマジックを見せるのに役立ちます。詳しくはトリックの章で解説いたします。

ペンスル・スルー・クォーター

プレスリー・ギターが火のついたタバコをコインに貫通させるマジックを考案しました。ただ、未成年者がタバコを使うのは好ましくありませんので、皆さんは鉛筆を使ってください。ギミックの部分がタバコ用ではなく鉛筆用に作られているものがあります。その場合は金属製のバネの代わりに、ゴム製のバンドが使われています。金属のバネのほうが耐久性があるので、私は好きです。バニッシング・インクでは、ジョンソン製の精巧な「シガレット・スルー・コイン」やタンゴ製の安価な商品などを購入することができます。

携帯電話を使った予言

私は高校生になるまで携帯電話を持たせてもらえませんでした。私が携帯電話を持たせてもらった時、学校内の他の人はまだ誰も持っていないませんでした。携帯電話は予言のマジックに利用することができます。予言のカードを携帯電話のカメラで撮影し、壁紙に設定するのです。携帯電話を使ったマジックについてはトリックの章でお教えします。

ストリートマジシャンを目指したほうがいいのでしょうか？

今、マジック界の新しいトレンドといえばストリートマジックであり、あなたもそのトレンドの渦中にいます。Tシャツに破れたジーンズを穿いたティーンエイジャーがマジックをしている動画やウェブサイトが巷には溢れています。そういったマジシャンたちは一風変わっています。台詞が少なく、トリックのシーンは細かく編集されて、薄汚れたストリートの雰囲気醸し出しています。

このような過剰な演出はあまり信じすぎないようにしましょう。これらは新しいジャンルのマジックに見えますが、ほとんどが昔からのアイデアの単なる焼き増しで、あなたたちと同じような若い年代をターゲットにしているだけです。残念なことに演技や観客とのやり取りに重点を置いたものはほとんどありません。しかも動画に登場するマジシャンには、明らかに経験不足な人がいます。ですから模範とすべき人は慎重に選びましょう。

私はマジック界を刺激するという意味で、こうしたトレンド（もしくはそれらの動画を紹介するウェブサイトなど）を好ましく思っています。ストリートマジシャンたちはマジックをより良く見せる方法を知っており、しかもその素晴らしさはあっという間に伝わっていきます。それらのウェブサイトでは素晴らしいマジックがたくさん紹介されています。動画をダウンロードしたり、100年前の本を読んだりすれば、あなたも良いマジックに出会うことができるということです。本物のマジシャンは演技とテクニックの両方を追求しています。もしあなたがストリートマジックを選択したのであれば、あなたの演技スタイルに合わせてトリックを変える必要があることは覚えておいてください。

「マジックに熱中してしまうことは、誰しも現実的にありえることだ。ただし、『そこそこに』とか『完全に』という程度の違いはある。」

—ノーマン・ヴィンセント・パー

台詞はどうしたらいいのでしょうか？

「トリックとその演じ方は、普段と異なる姿を見せるのではなく、あなた自身のありのままを表現したものでなくてはならない。」

—マイケル・クロース

それはあなたが自分自身に問いかけてください。自分の部屋の中で、マジック道具に囲まれた状況に身を置き、「これらのマジックをするとき、一体何を話せばいいのだろうか？」と自問してみてください。

まず、次の問いに対する答えをご自身で考えてみてください。「あなたはマジックの他に、何か興味を持っていることはありますか？」「あなたが嫌いなものは何ですか？」「あなたが大好きなものは何ですか？」「今までで最も印象に残っている休日とはどのようなものですか？」「世の中から何か一つ消すことができるとしたら、何を消しますか？」… あなたが表現したいトリックは、これらの質問に対する答えの中に見出すことができるはずです。

上手に道具を使い、自分のことをきちんと伝えることができるなら、あなたはもうアーティストです。ベストなのはマジックが自己表現の形をとっていること。こんなことを言うとおかしいかもしれませんが、ほとんどの大人のマジシャンはこういうことを考えたこともないので、ちょうどいい例を挙げることもできません。でも、あなたに合ったマジックというのは、あなたの年齢に見合ったマジックでもあるのです。

世の中のトリックのほとんどが大人のマジシャン（以下、「老人たち」）によって考案されています。老人たちはほとんどのトリックをお金で買っています。老人たちがトリックを考え、老人たちがトリックを買うということは、それらの説明書も老人たちが書いています。つまりあなたがそういうトリックを買い、そのまま演じてしまうと、自分の年齢よりも少し行き過ぎた演技になってしまいます。あなたはマジックを自分に合わせて調整しなければなりません。

前述した「シガー・スルー・コイン」などは格好の一例でしょう。子供にはタバコを吸うことは認められていません。だから、あなた自身をマジックに合わせます。身近なところに小さくて丸い形の物は何かありませんか？ 鉛筆とかクレヨン、絵筆*2に靴紐なんてどうでしょうか？ フライドポテトも使えますか？ こんなものを使うなんて馬鹿げていると思うかもしれませんがね。でもマジシャンである以上は、周囲にあるものに自分を合わせなければなりません。

*2 私は以前、『ジョシュア・ジェイのマジックアトラス』という本の中で、コインを貫通する絵筆のハンドリングを発表しました。絵筆の特徴はブラシの毛が柔らかいことです。そのためギミックのフラップを静かに閉じることができます。絵筆をコインに貫通させてそのまま引っ張ると、穴はだんだん小さくなって音もなく閉じます。私はこれを『ランス・バートンのヤングマジシャンズ・ショーケース』というテレビ番組で演じました。コインから絵筆を引っ張って見せることで、大きな反響を得ることができました。

私はカジノに出入りできる年齢になる前から、ギャンブルという素材に興味を持っていました。人々がポーカーやブラックジャックに慣れ親しんでいて、イカサマのデモンストレーションに興味を持っていることを知っています。ところが、私の年齢ではギャンブルをすることが認められないことも観客にはすぐに分かってしまいます。ですので、自分のことをイカサマやゲームのエキスパートだと主張するわけにはいきません。そこで私は「老人」向けのトリックを17歳である自分の年齢と性格に合わせるため、以下のような演技を考えました*3。

「人々はいつも同じことを聞いてきます。『どうやったの?』ではありません。『カードトリックを教えてください?』でもありません。人々が知りたいのは、『マジックを使えばポーカーで何をできるの?』なんです。

でも、実を言うと…私にもよく分かりません。なんせまだ17歳ですから。カジノに入ることもできませんし、イカサマなんてできるわけがありません。でもある日、自分のイカサマ能力をテストするため、部屋の中でできるゲームを考えました。それはこんな感じです。『でもある日、イカサマをテストするゲームを部屋の中で思いつきました。シャッフルを1回、カットを4回するだけで、ポーカーで一番良い手を見つけ出します…』」

*3 私のレクチャーノート『ティーンズ・ルーティン』のパラダイスエース・プラスをご参照ください。2003年に再リリースした私のDVDシリーズ『クロースアップ・アップクロス』の第3巻に載っています

ジョエル・ワード

ジョエル・ワードはベテランのステージマジシャンであり、自分の演技に変化を持たせつつ、常に最先端を追いかけています。世界中のイベントで演技を披露し、自身のイリュージョンショーも企画しています。彼は若手マジシャンのうちの一人でしたが、24歳でプロになりました。彼は自分のマジックを進化させ、ネタを自分の人間性に見合ったものにしていきました。その彼にこの題材について意見を聞いてみました。



ジョエル：若いうちにマジックを演じるという経験を持つことはとても素晴らしいですね。とてもうらやましいです。まず始めに、あなたの日常をマジックに取り入れてみたらいかがでしょうか。そうすると本当に面白くなると思いますよ。

ステージアクトに鳩を取り入れようと思ったのは、まだ私が10代の頃でした。その演技には当時私が好きだった曲を使用しました。舞台に立ってその曲（Tag Teamの『Whoop, There it is』という曲）が流れると、気持ちが高まりました。私は楽しくておかしなアイデアを思いつき、それをトリックに盛り込みました（それは青い鳩をお湯に浸けて白くするというものです）。

それから私も歳をとるにつれ、自分の年齢に演技を合わせなければならなくなりました。今では青年と呼ばれる年齢なので、それにふさわしい服装をしています。音楽の好みにも変化があって、私の演技にもそれは表れています。10代の頃に使っていた音楽を聴いても、もはや今の演技には合いません。アイデアというものは、年齢を重ねることで浮かんでは消えたりします。重要なのは演技を進化させ、変化の余地を残すことではないでしょうか。

私はこのようにして、クラシックなトリックを自分に合うようにアレンジしました。ときにはコインの代わりにクッキーを使ったり、トランプの代わりにベースボールカードを使ったりします。私の台詞は老人のマジシャンとは違い、とても奇抜な内容でした。イカサマ師を負かしたり、路上の男性からお金を騙し取ったりするような話ではなく、自分の親の目をごまかしたり、宿題を消してしまったりするような話をしました。

マジックに興味を持ったきっかけとは？

あなたがマジックに興味を持ったきっかけとは一体何でしたか？ 私の場合は父がマジックを教えてくれたのですが、マジックセットがきっかけだったという人も多いのではないのでしょうか。私が初めてマジックセットを手に入れたのは、既にマジックに興味を持った後です。その中には安っぽいプラスチック製の道具と意味不明な説明書が入っていました。しかしマジックセットというものは、何百年も前から子供たちを虜にしてきました。私もだんだん昔のマジックセットに魅了されていき、パッケージにのめり込むようになりました。20世紀の前半に生まれたマジシャンは、たいていが「ギルバート・ミスト・マジック・セット」を持っていました。このセットの中にはリンキングリング、スプリング、ガフコイン、特製カード、美しい木製ウォンドなど、金属や木でできたマジック道具がたくさん入っていました。さらにポスターまでついていて、そこに自分の名前とショーの日時を書き込み、近所の子供たちに知らせることができるようになっていました。私は現在、自分が生まれる50年以上前に発売されたミストセットを集めています。こんな素敵な道具で今でもショーができることにとても驚いています。



自分の年齢を前面に押し出したほうがいいのでしょうか？

あなたのマジックをユニークなものにするのはあなた自身であり、決してあなたの年齢ではありません。年齢とはあなたのことを言い表す情報の一つです。興味のあることや話し方、服の着方、演じ方などに自然と現れます。しかし自分の「若さ」だけを武器にすべきではありません。それは安っぽい手法ですし、やがてあなたも年を取っていくものだからです。

若手マジシャンの中には自分の年齢について過信している人がいます。以前の私がそうでした。かつて、「少年時代にマジックの大会で入賞」と書かれた名刺を持ち歩いていました。そのせいで、「ジョシュア・ジェイって…年齢の割に良かったね」などと言われるようになってしまいました。

「年齢の割に」とは、一体どういうことでしょうか。あなたも年齢に関係なく、マジックのクオリティだけで観客には評価されたいはずです。ですから自分の演技には若さを生かすようにしてください。決してあなた自身という素材を曇らせてはいけません。

どんな服装をすればいいのでしょうか？

「マジシャンに対する信頼は身に着ける衣装の飾りに反比例する。」

— トニー・アンドルツィ 『エクスペリエンス・オブ・マジック』
(ユージン・バーガー著)

観客が最初に目にするものはあなたの外見ですから、ここから考えてみるのがよいでしょう。あなたの年齢は偽ることはできません。あなたが演技を始めたら、観客はあなたのことを風変わりだと思うかもしれません。でもそう思われることは決して悪いことではありません。あなたが観客に対してリラックスして臨んでいたら、観客もあなたに気楽に接してくれるでしょう。

では一体何を身に着ければいいのでしょうか？ マジシャンはよくタキシードを着ますが、もしそれにトランプ柄のネクタイをしていたら最悪なファッションですね。そういったマジシャンの真似をする必要はありませんので、あなたは自分の若さを生かしましょう。格好良くて上質なもので、大人たちよりも少し派手な服装にします。私が子供の頃は、明るいスーツに派手なネクタイを着ていました。その服装でショーの前に会場を歩いたら、自分がマジシャンだということが観客に丸分かりでした。要するに、クレヨンのような色が子供にはふさわしいと思い込み、やりすぎていたわけです。今になってその時の写真を見てみると、実際にクレヨンのような服を着るのもいいアイデアだったのではないかと考えています。

女性マジシャンの場合は他にも心配な点があります。かつてマジックの大会で、16歳の少女がTバックのビキニに半透明のローブを着ただけで演技をしていたのを見たことがあります。舞台上には床から天井を支える梁が立っていました。隣に座っていた男性は「次はポールダンスをしてくれたらいいのにね」などつつばやいていました。これは両親の影響があるかもしれませんが、もしかしたら自分で決めたことかもしれません。ただし、女性マジシャンがストリッパーのような服装をすれば、決してマジシャンとして見られることはありません。

私は女の子です。私でもマジシャンになれるでしょうか？

全く問題ありません。喜ばしいことに、最近ではたくさんの女性がマジックに興味を持ってくれています。女性マジシャンはひと昔前ではとてもレアな存在でしたが、その流れは変わりつつあります。昨年マジックキャンプでは女の子だけのキャビンが3部屋もありましたから。

若い女性のマジシャンは、女性らしさを強調したり、女性であることを武器にしたりするのはやめたほうがいいと思います。女性マジシャンが気まぐれでチャラチャラしたキャラを演じるのは見飽きました。決まりきった演技をするのは好きではありません。なぜなら女性にはマジックができないといった間違った考え方を助長するからです。

もちろんあなたは自分の性別を利用すべきです。なぜなら性別はあなたを構成する要素の一つだからです。要するに性別を唯一の武器にせず、個性に裏打ちされたあなた自身の特徴を生かすようにしましょう。

自分でも観たいと思うマジックを演じ、性別ではなく演者の個性を感じさせる演技を作りましょう。

クリスティ・トグチ

私は女性マジシャンとして、短い人生の中でも困難な道のりを歩んできました。私が10代の頃は、マジックのコンベンションや大会に行っても女性が私だけしかいなかったこともありました。最近では女性が存在感を増してきており、コンベンションに集団で参加している若い女性たちを見かけるようになりました。この傾向が今後も続くといいなと思っています。



マジシャンとして成功するかどうかは性別によって決まるものではありません。あなたのスキルによって決まります。過去にクライアントが女性マジシャンを希望したことがあり、私がそのショーを受けたことがあります。ただし、それは特殊な状況であり、私はいつも男性の同僚と同じ土俵で比較され、今まで仕事を得てきました。

私が若手の女性マジシャンとして難しかったのは、他のマジシャンから尊敬を勝ち取ることでした。かつて私は「女は所詮、アシスタントにすぎない」と言われたことがあります。今より若かった頃は私もこの考え方に取り憑かれていました。しかしその反動で今ではもっと良いマジシャンになりたいと考えるようになりました。私は他のマジシャンを見ても性別で差別することはありませんし、皆さんもそうしたほうがいいのではないのでしょうか。ところがここはショービジネスの世界です。この世界に身を置けば、様々な人々から様々な意見を言われるでしょう。それがこの業界の人であろうとなかろうと、性差別する人に言われるがまま我慢する必要は全くありません。

私は若手の女性マジシャンとして、マジシャンと観客の両方に対して男女平等を推進する大きな責任があります。そしてそれを実現するための最善の方策とは素晴らしいマジックをすることなのです。

先生は必要なのでしょうか？

先生が必要だというマジシャンは多いですが、私は疑問です。マジシャンの中には先生と呼ぶにはふさわしくない人物があまりに多いと思います。また、他人から教わった生徒は、たいていが教わった先生と同じレベルにしかありません。ここで言いたいことがお分かりいただけるでしょうか。つまり、マジックにおける先生と生徒の関係は、教えることとコピーすることの違いを両者が理解していなければ意味がありません。

メンターを持つことには明らかなメリットがあります。あなた自身のペースで行動しながら、何でも尋ねることができますし、ユニークなフィードバックが得られます。

その反対に、デメリットは分かりにくいかもしれません。生徒はいくら気をつけていたとしても先生のテクニックやパフォーマンスに影響を受け、先生のスタイルでマジックをするようになってしまいます。この点について安易に考えてしまうと、簡単に劣化コピーが出来上がってしまいます。このことになると、私はコンベンションのコンテストに出場していた10代の女の子のことを思い出します。驚いたことに、彼女はそこでみずばらしい中年のバーテンダーのような演技をしていました。つまり、彼女の先生がみずばらしい中年のバーテンダーだったということです。

私にはメンターはいませんし、いなくて良かったと思っています。私の故郷はオハイオ州カントンで、先生となるべき人が周りにいませんでした。そのため、私は本を自分の先生としました。自分で何もかもこなしていかなくてもなりませんでしたが、問題の解決方法が分からないときは自分で編み出さなくてはなりませんでしたが、でも、これが重要なポイントなのですが、実はその問題を解いていく過程が私にはとても楽しかったのです。自分の家でショーの構成を考え、それを観客の前で試すのにいつもわくわくしていました。アンビシャスカードの手順を解説した本を全て読破し、それらの情報を基に自分の手順を構成するのがとても面白かったのです。マジックを自分で学んでいくことは今でも私の基礎になっており、新しい手順を考える時は、必ずこのようなアプローチを取るようになっています。

誰にアドバイスを受けるべきでしょうか？

あなたが若いマジシャンなら周りからたくさんのアドバイスを受け取ることでしょう。周りというのは、観客、先輩、兄弟、マジッククラブのマジシャン、インターネットの掲示板にあふれる自称「専門家」たちのことを指します。それでは一体誰を信用すればいいのでしょうか？

あなたは全ての人の意見に耳を傾けるべきです。しかし、最終的には自分自身だけを信じるようにしてください。観客や友達、それにあなたの家族といった人たちは、「この台詞は面白かった」とか「この現象は弱かった」などといった、とても大切なことを教えてくれるはずですよ。また、あなたの兄弟ならタネがちらりと見えただけですぐに指摘します。もし自分の兄弟をマジックで騙すことができれば、それは他の人にも通用するという証しにもなります。それから他のマジシャンたちも有益な存在です。インターネットの掲示板では、著名なマジシャンが気前よく情報提供してくれるかもしれません。

しかし、分かりやすいアドバイスが実際の現場で役に立つとは限りません。あるマジシャンにとっては有益なことでも、他のマジシャンにとってはそうではないこともあります。以前、私は地方のマジシャンから、「常に笑顔でいなくてはならないよ」と忠告されたことがあります。「ショービズの世界というものは、常に歯を見せるくらい笑顔を作らないといけないよ」というのです。私はそのアドバイスに従いました。でも、すぐに止めてしまいました。なぜなら、理由もなく笑顔を作り続けるのは、とてもごちないことに気付いたからです。それに観客が

ダニエル・ガルシア

ダニエル・ガルシアは私が大好きなマジシャンです。私と同年代で、しかも経験も似ています。今日において、ダニエルは最もクリエイティブで革新的なマジシャンの一人です。その彼でさえ年を取ったマジシャンから古い意見を押し付けられてきました。このセクションでは誰の意見に耳を傾けるべきか書いていますが、他の人が自分の意見を聞いてくれない場合について、彼は次のようにアドバイスをしています。



ダニエル：年寄りのマジシャンには下品で、うぬぼれている人がいます。あるマジッククラブでのこと。私はまだ13歳で、パスのやり方を知りたいと考えていました。私はいろいろな人にパスのやり方について尋ねました。まだパスのことは目にしたことはなく、そういう技法があると聞いたことがあるだけでしたが、カードマジシャンにとって必要な技法だと思っていました。いろいろな人に尋ねましたが、返ってきたのは『パスなんて覚える必要はない。ダブルアンダーカットで十分だ』という言葉だけでした。他にも『パスを知ろうとするには君にはまだ早い』という人さえいました（その人は決して私にマジックを見せてくれませんでした）。

でも結局のところ、誰も教えてくれないのもっとパスのことが知りたくなりました。私はそれから本やビデオで調べ、数か月後には堂々とパスができるようになりました。もし年寄りのマジシャンからネガティブな反応を受けた場合、その負のエネルギーを自ら道を切り開くモチベーションに変えていけばいいでしょう。

完全に気味悪がっているのが分かりました。アドバイスしてくれた人にとっては、そのほうが良かったのかもしれませんが（本当にそうかと言われると今でも疑問ですが）。しかし、私には当てはまりませんでした。

意見や提案などは試してみるのが一番いいのではないのでしょうか。そしてそれらを客観的に評価し、適切な形で受け入れるようにしましょう。

自分の演技に対する支援はどこで受けることができますか？

デビッド・オリバーはこの業界において、若手マジシャンたちのために多大なる貢献をしてきました。ソサエティ・オブ・ヤング・マジシャンズ（SYM）の設立以来、彼はそこで重要な役割を果たしてきました。タネン・マジック・キャンプの顧問でもあり、20年以上もカリキュラム作成のお手伝いをしています。私もデビッドには大きな影響を受け、彼の教えがなければ若いマジシャン向けの本のことなど思いつくこともなかったでしょう。そこで私はデビッドに対し、若い人がどこで演技に対する支援を受けたらよいか尋ねてみました。

他のマジシャンに自分の演技を批判してもらうことが大切です。しかしそれだけで十分だとは言えません。信頼できる先生や演技のコーチに自分の演技を見てもらいましょう。自宅や教会などで友人に披露しても構いません。その後で自分の演技のどこが気に入ったのか、それともどこが気に入らなかったのか尋ねましょう。観客にはあえて意地悪になってもらい、正直に何でも言ってもらいましょう。傷つく内容を言われるかもしれませんが、全ての意見に耳を傾け、紙に書き出します。帰宅したら書き留めたノートは見ないようにし、それを1週間後に読み直してみます。そうすることでとても新鮮な視線で眺めることができ、直接批判を受けた時よりも冷静に受け止めることができます。これを何度も繰り返すと、批判を受け入れやすくなり、自分の演技を修正してより良いマジシャンになることができることでしょう。

私はショーの後で観客と直に会って、質問をするようにしています。そうすると、とても新鮮で率直な意見を言ってもらえます。観客の意見にお礼を述べ、すぐに「ショーの中で一番良かったのはどこでしょうか？」と尋ねます。すると観客は自分のショーの中で際立っていたところを教えてくれるはずです。次に「もしショーの中で気に入らない部分があるとすれば、どこでしょうか？」と尋ねます。ここで言われる観客の意見には、注意深く耳を傾けなければなりません。自分が楽しませようとしている観客が目の前にいるのですから、気に入ってもらえたことと気に入ってもらえなかったことを見つけ出すようにしましょう。そういう意見を今後に生かすことができれば、より良いパフォーマーになれるはずです。

もちろん、マジックの指導者を持つことも良いことです。豊富な経験を持った人から教えてもらったり学ぶことができたりすれば、大きな助けになるはずです。私には25年以上も一緒に活動してきた仲間がいますが、SYMのメンバーでもありますし、タネンやソーサラー・サファリ・キャンプ（詳しくは83～85ページを参照）にも参加しています。そういった場にいる人たちはみな、あなたのマジックを向上させるという共通の目標のため、協力してくれるでしょう。

最後に一つ。自分の演技を向上させるには自分を信じることです。キャンプに参加してアドバイスやレッスンを受けたら、自分の演技にとって一体何が正しいことなのか、そしてそれをどのように実行するべきなのか理解できるようになるでしょう。あとは自分自身を信じるのみです。

何を買えばいいのでしょうか？

これは子供たちとご両親のどちらからも寄せられる質問です。もっと具体的に、「あなたは『ペン・スルー・タン』と『ハンカチーフ・スルー・ミラー』のどちらがいいと思う？」などと聞かれることもあります。残念なことです、はっきりとした目的があったとしても、こういったことは人に尋ねるべきではありません。

トリックそのものを買うよりも本や DVD を買ったほうがいいでしょう。経済的な観点からいっても、同じ金額でより多くの情報を得ることができます。マジックの値段というものはほとんど統一されてきています。最近ではマジックの専門書がだいたい 40 ドルで買えるようになっていきます。典型的なクロースアップのマジックグッズであれば 15 ドルで買えます(もちろん例外はありますが)。マジックの本にはだいたい 20 ～ 50 個のマジックが載っていますが、マジックグッズを単品で買えば一つしか手に入りません。

本や DVD のメリットは他にもあります。それはパフォーマーの視点による考察や特定のトピックにおける詳細な研究を学べることで、本を何度も読み、DVD を繰り返し観ることによって、テーマがどのように練られ、マジックへと進化しているのかを知ることができます。これはあなたのクリエイターもしくはパフォーマーとしてのスキルを向上させることもできるはずです。たった一つのトリックを購入しただけではレパトリーの小さなかけらを手に入れたにすぎず、ある問題を狭い視野でしか考えることができません。

そこで私からの提案です。今度からは「本や DVD のほうがいいと思いますが、どのタイトルを買ったらいいのでしょうか？」と尋ねるようにしてください。

私自身も周りの人に同じ質問を何度もぶつけてきました。年を重ねながら、あらゆるマジシャンに対して、どんな本や DVD がおすすめかを尋ねてきました。中には的外れな回答もたくさんありましたが、そのおかげで私の本と DVD のコレクションは増えていき、良い悪いも見極めることができるようになりました。

若い人と年を取った人では求めるものが異なります。あなたは情報量が拡大し、拡散する世の中に生きています。情報はたくさんの媒体でリリースされており、電子書籍や CD-ROM、DVD といった新しい形でも発表されています。あなたのような若い人と大人になってマジックを始めた人とは上達までの道のりが異なります。20 年前の状況とも全く異なっています。

往年のマジシャンたちは、ダリエル・フィツキー・トリロジー (『トリック・ブレイン』、『マジック・バイ・ミスディレクション』、『ショーマンシップ・フォー・マジシャンズ』*4)、『ターベル・コース・イン・マジック』*5、ルイス・ギャンソン『ダイ・バーノン・ブック・オブ・マジック』*6、ハリー・ロレイン『クロースアップ・カードマジック』、ヘニング・ネルムズ『マジック・アンド・ショーマンシッ

*4 これらの本は素晴らしい思考の糧になりますが、時代遅れのものと大切なものとの見極めができる方に向けた内容になっています。トリック・ブレインはマジックを分類するのに科学的なアプローチを取っていますが、それは常に危険な命題です。私にはこの本が楽しめましたが、もしかしたら楽しめるのは私だけかもしれません。

*5 これはもともと連載されていたものですが、現在は 8 巻まで刊行されています。

*6 バーノンの作品はクロースアップマジックを学ぶ人にとってモデルにすべきなのですが、この本に書かれた内容は基礎的なスライトを習得した後でなければ取り組むことができません(リテンション・パニッシュの知識がなければ「ボールとコーン」の手順を演じることができません)。

*7 この本には普遍的で有用なアドバースと有名なトリックやプレゼンテーションが、イメージしやすいように、対になって掲載されています。例えば、ネルムズはあるページの中でマジックにおける意味の重要性を説き、次のページでは「ヒッピー・ホップ・ラビット」を取り上げて図解しています。

*8 この本はジーン・ヒューガードとフレデリック・ブラウーによって書かれました。初心者にはなじみやすいものではないと思いますが、私自身のスキルが向上するにつれ、だんだん面白くて役に立つと感ずるようになりました。この本の買い方には二通りがあります。安いペーパーバック版なら「www.amazon.com」にて、10ドルで買うことができます。しかし、あなたがこの本の内容を理解できるくらいのレベルであれば、第3版を私はお勧めします。これはダイ・バーノンとドクター・ジェイコブ・ダレーの追加資料が載っている珍しいバージョンです。この資料はとても素晴らしい内容ですので、50ドルのプレミアムが付いていても支払う価値があります。

*9 S・W・アードネスの『エキスパート・アット・ザ・カードテーブル』という本のことです。この本は地元の書店や前述のウェブサイトで安価に入手することができます。

*10 エキスパート・カード・テクニクは、ダブルリフトやボトムディール、それにパスなどのスライトについても書かれていますが、それらの解説は30ページほどしかありません。

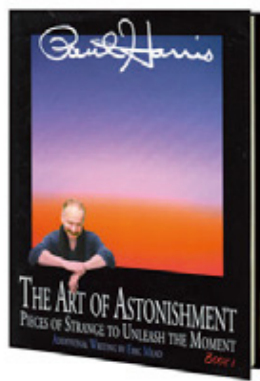
プ』*7などの本をおすすめしています。

振り返ってみても、これらの本が現代のあなた方にとって最適なものだとは言い切れません。私はここに挙げた本以外にも、古典とも言える古い本が大好きです。しかしここからは子供たちにとって本当に役に立つと思われる本をご紹介します。初心者向けの本は必ずしも初心者に役立つ内容だとは限りません。以下に挙げる本はマジックを少し勉強したことのある人にとって、有益な内容になっています。

例えば、カードマジックの初心者には必ず『エキスパート・カード・テクニク』*8とアードネスの本*9を読むように教えられます。この2つの本は今世紀のカードマジックに対して最も影響を与えた本だと私は断言できます。ただ、決して理解しやすいとは言えません。『エキスパート・カード・テクニク』は1940年に、アードネスの本は1902年に出版されました。初心者が読むにはそっくりない記述で、内容を完全に理解するのはとても大変です*10。将来的には、あなたにもこの2冊の本が読みたくなる瞬間がやってくることでしょう。そうなったときに読んでこそ役に立つ内容だと思います。

このような例外を除いて、これから購入を検討すべき本を挙げていきたいと思います（私が考える推奨年齢も記載します）。決してリストに挙げたものが全てだとは言えませんが、世界中の現役のプロマジシャンが生計を立てるためにこれらの本を活用しています。

本（アルファベット順）



ポール・ハリス、エリック・ミード (Paul Harris and Eric Mead)

『ジ・アート・オブ・アストニッシュメント (The Art of Astonishment)』

対象年齢：14歳以上

ポール・ハリスは面白い現象を生み出すクリエイターです。この本では彼のマジックを楽しく学べるように彼自身が解説しています。彼はトランプを1枚の紙として扱い、折り曲げたり、破ったり、糊でくっつけたりしながら、奇妙なパズルのような作品を生み出しています。はつらつとしたスタイルで、文章も読みやすくなっています。1996年に発売されたこのシリーズには、彼の全作品がイラストとともに整理されて掲載されています。この本には学ぶ価値のあるマジックがたくさん載っています。全3冊からなるこのシリーズはマジックショップにおいて、1冊あたり45ドルで購入できます。



ニコラス・アインホーン (Nicholas Einhorn)

『アート・オブ・マジック・アンド・スライト・オブ・ハンド (The Art of Magic and Sleight of Hand)』

対象年齢：7 歳以上

デジタル写真付きのカラーのマジックの本がここ 10 年ほどの間に発売されるようになりましたが、この本がその代表格です。トリックは図解されていて、若い人にも分かりやすい内容になっています。しかも手頃な値段で、面白いトリックやスライトハンドがたくさん解説されています。とても簡単に不思議な現象を起こしたいと思ったら、この素晴らしい本からマジックの勉強を始めましょう。この本は町の本屋にて、6 ドル足らずで売られているのを見かけたこともあります。



ロベルト・ジョビー (Roberto Giobbi)

『ロベルト・ジョビーのカード・カレッジ (全 5 巻) (Card College Series)』(邦訳あり)

対象年齢：15 歳以上

この本にはカードマジックに関するあらゆることが網羅されています。ロベルト・ジョビーはカードマジックを演じるのに必要な基本技法について、多くのスペースを使って説明しています。シリーズの構成もよく考えられています。まず先に技法を紹介し、次にそれを使った現象を解説しています。何章か後には紹介した技法のいくつかを組み合わせた現象を解説しています。もしあなたがカードマジックに興味を持ったとしたら、何度となく読み返すことになるでしょう。この本ではダブルリフトやトップチェンジ、パスやカルといった技法を学ぶことができます。1 冊あたり 35 ドルで手に入りますが、1 冊ごとに購入し、少しずつ読んで理解していくことをおすすめします（全巻を一度に買ってしまうと情報量が多すぎるかもしれません）。マジックショップであればどこでも手に入るでしょう。



クリス・キャリー (Chris Carey)

『ドゥ・ザ・スタッフ・ザッツ・ユー (Do the Stuff That's You)』

対象年齢：15 歳以上

クリス・キャリーは子供向けに特化したマジシャンで、子供たちのことをよく理解しています。この本はマジック業界に関するエッセイ集になっています。短いエピソードで成り立っているので、かみ砕いて自分の演技に応用しやすくなっています。もしあなたが子供たちを楽しませようと考えているなら、彼は自分の若さを隠すのではなく、上手に生かすようにとアドバイスしています。残念ながら絶版になっていますが、古本屋にて 30 ドル以下で手に入れることができるはずです。



ジョシュア・ジェイ (Joshua Jay)

『マジック：コンプリート・コース (MAGIC: The Complete Course)』

対象年齢：10 歳以上（私の本を宣伝させてください！）

2007年のことですが、私はこの本を書くチャンスを与えられ、大きな責任を感じました。大きな出版社と契約を結び、一般向けにマジックを紹介する本を書くことになったのです。とても大きなプロジェクトでしたが、現在でもあらゆる本屋で手に入れることができます。私はこの本を出版できたことをとても誇りに思います。本の中では演技とテクニックを詳しく解説しており、写真も豊富に掲載しています。2時間分のDVDが付属し、たくさんのトリックを解説しています。マジックの歴史や心理学についても書いており、マジックをする上で知っておかなければならない素晴らしいトリックの数々を覚えることができます。この本は20ドル以下で手に入れることができます。



ジョシュア・ジェイ (Joshua Jay)

『マジックアトラス (The Magic Atlas)』

対象年齢：12歳以上（もう一度宣伝させてもらいますね！）

私はこの本を書き上げたのは 17 歳になる前です。ここで取り上げたマジックの中にはもう演じることがなくなっただけのも含まれています。10 代の頃の私にとってはちょうどよいものばかりだったのですが、今ではもう年を取りすぎてしまいました。この本に載せている道具や手順、台詞、テーマなどは若手マジシャンや観客にとってぴったりでしょう。もしあなたがまだ 10 代で何らかのマジックの仕事をしているのなら、この本がとても役に立つはずです。最初の章では、もっぱら若手パフォーマーがマジックを演じる際に直面する様々な問題について扱っています。私の知る限り、この問題に対して最も徹底的に取り上げているのはこの本が初めてです。この本は私のホームページ (www.joshuajay.com) にて、35 ドルで販売しています。

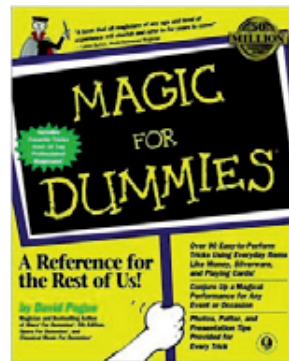


ハリー・ロレイン (Harry Lorayne)

『マジックブック (The Magic Book)』

対象年齢：12 歳以上

多くの方がハリー・ロレインの『クローズアップ・カードマジック』という本を推しますが、氏の『マジックブック』は特に初心者向けに書かれた内容になっています。元々は一般向けの本として出版されましたが、この本には素晴らしいクローズアップマジックとサロンマジックがたくさん紹介されています。彼は誰よりも文章力と教える能力が優れていて、他の本に比べて際立った内容になっています。例えば「マジック・スクエア」というマジックは、子供にとって覚えにくい内容ですが、とても素晴らしい数理マジックです。幼かった頃の私でさえ、彼の文章はとても理解しやすいと感じました。ほとんどのマジックショープにおいて、35ドルで手に入れることができます。



デビッド・ポグ、マーク・レヴィー (David Pogue and Mark Levy) 『マジック・フォー・ダミー (Magic for Dummies)』

全年齢対象

初心者にとってはこの本が最適でしょう。巧妙なトリックをたくさん紹介しているだけでなく、それらをとでも詳しく解説しています。推測で書かれていることは何もなく、クリアな写真を使っています。演技をする上でのポイントやマジック歴史などを解説し、プロになるためにはどうしたらいいかということも書かれています。特にボブ・ファーマーの「クリーピー・リトル・ベイベー・ハンド」やチャド・ロングの「シャッフリング・レッスン」には注目して読んでみてください。この本は「www.amazon.com」において、14ドルで手に入ります。

*11 この本には私のことも書かれています。幸運にも私のことは肯定的に取り上げていただきました。「2002年に、ジョシュア・ジェイのレクチャーに参加したときのこと。カードを用いたものすごいムーブを、ジェイが実際に演じながら解説するところがありました。そのときジェイは、会場の後ろの参加者が、自分の手元を見るのに苦労していることに気付いたのです。そこでジェイは、どうしたと思いますか？ テーブルの上に飛び乗ったのです！ 私はこれまでに色々な演者を見てきました。そこには、ジェイよりもはるかに長い舞台の経験年数を誇るプロも含まれるわけですが、他の誰もがまずやらないような方法で、ジェイはその場の状況を支配したのです。しかも、レストランで大きな顔をしてビールを注文出来るようになるまでには、まだ何ヵ月も間があるという年齢で、それをやってのけたわけですよ！」(株式会社リアライズ・ユア・マジック『マキシマム・エンターテインメント』田代茂訳による269ページより抜粋)



ダーウィン・オーティス (Darwin Ortiz) 『ストロング・マジック (Strong Magic)』

対象年齢：16歳以上

これは最も現代的で、学ぶ価値のあるマジックの理論に関する本です。著者は古くからある理論の概略を示した上で、新しいアイデアを紹介しています。しかし他のマジック理論の本と異なる点は、子供でも分かるように重要なポイントを図解しているところです。彼はこの本の中で映画やクローズアップマジック、そして若い世代の人たちがよく知っているパフォーマーのことにも触れています。彼の文章はとても論理的で、プロと同じように初心者でも理解しやすく書かれています。最近でも再版されていて、世界中のマジックショップにおいて、50ドルで手に入ります。



ケン・ウエバー

『マキシマム・エンターテインメント (Maximum Entertainment)』(邦訳あり)

対象年齢：16歳以上

このケン・ウエバーによるパフォーマンスに関する現代の古典をいうべきこの本は、とても読むのが楽しく、まさに必読の書と言えます。彼のアドバイスは実用的で、あらゆる場面で活用できるでしょう。この本ではマイクの使い方からボイス・トレーニング、アイコンタクト、ステージの区割りといったことまで、どの場所でも通用する基本的な情報が網羅されています。重要なポイントは図解されていますが、私たちがよく知っているマジシャンを例にして説明しています*11。「していいこと」や「してはいけないこと」の例が示されていますので、私たちが憧れるマジシャンも皆同じ人間だということにあなたも気付くでしょう。

本とビデオはどちらがいいのでしょうか？

世の中にはビデオが好きなマジシャンと本が好きなマジシャンがいます。どちらが優れているかという議論は無意味で馬鹿げています。一般的にレクチャービデオがなかった時代のマジシャンは映像メディアの存在に腹を立てていますし、安価なビデオや DVD を手に入れることができる若いマジシャンは本を読むことが退屈だと言います。

学習にとって最も適しているのはどちらも取り入れることです。概念や考え方というのは印刷された本からでしか得られないものもあるれば、実際に見てみないと真価が分からないものもあります。

登場人物の展開や観客とのやり取りといったことはライブ・パフォーマンスの映像でしか学べません。同様にタイミングやミスディレクションといったことも本よりビデオのほうが学びやすいでしょう。

基本技法や現象などを専門に解説したビデオも何種類か存在します。初心者にとってはそのほうがきちんと基礎を学べるため、素晴らしい教材と言えます。基本技法を実際に目にしながら学ぶことで、次により難しく高度なハンドリングに取り組むことができるようになります。

多くのマジシャンがビデオの活用方法を間違っていて、マジックを単に模倣するだけの人が後を絶ちません。特に子供たちにはそういう子が多いです。若くて影響を受けやすい初心者の中には、ビデオで観た通りに演じている人がたくさんいます。その結果、映像だけの限られた情報で模倣をする人がたくさん生まれました。でも、だからといって映像メディアを排除したり、避けたりする必要はありません。要はマジックをあなたが見た通りに演じる必要はないということに気付いてください。覚えたトリックは試行錯誤の出発点として使ってください。

次のページでは、若いマジシャンにとって特に有益だと思われるビデオをご紹介します（アルファベット順）。



ドン・アラン (Don Alan)

『ドン・アランのマジック・ランチ (Don Alan's Magic Ranch)』

私と同じ年代の方にはこのビデオをおすすめします。まず、演者がとても素晴らしいプレゼンテーションでクラシック・マジックを演じています。さらにそれだけではなく、私たちが観たこともないような40年前のテレビ番組が収録されています。これはトリックを解説したビデオではなく、子供向けのテレビ番組を集めたものになっています。この番組はアメリカ西部の牧場で、ホスト役のドン・アランがゲストに対してマジックを演じるというスタイルをとっています。マジックのパートはいろいろなマジシャンが担当し、クラシックな演技を観ることができます。また番組ではジュニア・マジシャンに焦点を当てることもあり、若手マジシャンが呼ばれてマジックを披露しています。そのほとんどでマジックを失敗しているので、自分自身のプライドを戒めることができるかもしれません。しかしもっと重要なのは、ドン・アランが彼のオリジナルマジックを何度も演じてくれることです。彼の面白い小道具やセリフなどが、どのようにマジックを成立させるのか注目してください。このビデオは1セット100ドルで販売されています。



マイケル・アマー (Michael Ammar)

『イージー・トゥ・マスター・シリーズ (Easy to Master Series)』

マジック界で一番教えるのが上手いのは、おそらくマイケル・アマーで間違いありません。このシリーズはカードが9巻、マネーマジックが3巻、インビジブルスレッドが3巻で構成されています。これらのビデオは全て映像のプロによって撮影・編集されており、観客にとってもウケているところもきちんと収録されています。数多くの本やマジシャンから集められた作品が収録されており、テクニックとプレゼンテーションの両面から解説されています。DVDなら各巻35ドルで、あらゆるマジックショップで手に入れることができます。



トム・マリカ (Tom Mullica)

『イブニング・アット・ザ・トム・フーラリー (An Evening at the Tom Foolery)』

この中ではトリックの解説はされていませんが、私が子供の頃から今に至るまで、とても大好きなビデオです。トム・マリカはアトランタで「トム・フーラリー」というマジックバーを経営していました。このビデオでは彼のマジックバーでの演技が収録されています。ビデオの画質は悪く、音楽はファンキーですが、彼自身がとても魅力的なので全く気にならないでしょう。彼は時にピエロとなり、またある時はコメディアンになります。しかし、あくまでもベースはマジシャンで、そのコンビネーションが完璧だと思います。手順構成やタイミング、そして観客とのやり取りなど様々な発見があるでしょう。これは映像が活字に勝ることの良い例だとも言えるでしょう(トムのマジックを解説した本もありますが、バーマジックに特化した内容であるので、若い人には適さないかもしれません)。このビデオはたったの20ドルですし、週末に楽しむにはちょうどよい内容だと思います。

マジックはいつ・どこで演じたらいいのでしょうか？

それはどこでも構いません。できるだけたくさん演じるようにしましょう。

ペン・アンド・テラーは演じた時間のことを「パイロットの飛行時間」と同じだと表現していました。ですからあなたもできる限り経験を積むようにしてください。なるべく多く舞台に上がり、観客の前に立つ経験をおきましょう。その際、可能であれば観客には赤の他人と同じように接してもらいます。自分の母親のように優しく接するのではなく、兄弟のように意地悪になってもらうのです。初めてショーを行った時のことを思い出してください。失敗ばかりでひどい内容だったと思います。でもそれでいいのです。失敗から多くを学ぶようにしましょう。

仕事でお金をもらうようになる前に演技の経験はたくさん積んでおくべきです。実際の観客の前で演技を披露するのに加え、地元のマジッククラブに参加してみましょう。経験豊富な観客に自分のショーを評価してもらうことで、価値あるアドバイスが得られます。

また、学校、教会、孤児院、老人ホームなどでボランティアのショーをさせてもらいましょう。市民サービスの一端を担うことに加え、他では得られない経験をこの場で積ませてもらうのです。私も初めて老人ホームでショーを行った時のことが、とても大きな勉強になりました。私は、「誰かお手伝いにステージに上がって来ていただきましょう。どなたか客席の照明を点けていただけますか」と言いましたが、客席が明るく照らされて見たものは、車いすに座った老人たちでした。誰一人として自分の足でステージには上がりません。すぐに私は頭を働かせて、その状況に合わせて演じました。状況に合わせることと機転を利かせることはマジシャンにとって非常に大切なスキルです。私のにとってこの経験をここで得られたことはとても幸運でした。

次に進む前に、リスクという考え方の重要性についても触れておきます。マジックを演じるというスリルを体験するためには、リスクをとることも必要です。あなたの考えたショーの台詞を面白くするためには、それを試しに口に出してみなくてはなりません。新しいトリックが使えるかどうかを知るためには、それを人前で演じてみなくてはなりません。そういうリスクは先ほどお話ししたようなボランティアのショーなどで実験すべきでしょう。

有名なクローズアップマジシャンであるアルバート・ゴッシュマンは自著の最後を次のような文章で締めくくっています。「マジックよ……僕の思った通りの演技はできないし、よくまあ、ここまでの苦しみと敗北感を味わわせてくれたね。でも、今の自分はあるのは全て君のおかげなんだ。どうもありがとう。」

マジックで女の子にモテるようになりますか？

マジックを始める理由には様々なものがありますが、女性にモテるために始めたという人が大勢います。そういう人たちこそあまり長続きしません。また、マジックを続けている人は、既に目的が女性にモテるためではなくなっています。私は今まで男性にモテるためにマジックをしているという女性に出会ったことがありません。おそらく男性よりも女性のほうがマジックの限界を理解しているからでしょう。

やはりここで真実をお伝えしておきたいと思います。マジックは女性にモテるための武器になりません。カードを当てることで晴れて女性とキスすることができるとしたら、毎日一人でカードマジックを練習するはめになるでしょう（正直なところ私はそれでも一向に構わないのですが）。

ただ、マジックはデートの場面において素晴らしい武器になります。趣味として面白いですし、マジックで得られるスキルも役に立つからです。マジシャンの素質がある人というのは、とても大胆で、社交的であり、ちょっとしたユーモアにあふれる人です。そういう人は大人の中でも限られていて、若い人にはそもそも存在すらしていません。でも、ご安心ください。マジックはリングを繋げたり、コインを消したりすることができるようになるだけではなく、そういったスキルも身に付けることができるのです。

え？聞きたいのはそういうことではないって？

どうしてもマジックを利用して異性と出会いたいと？それならば、ここで厳しい現実をお伝えしなくてはなりませんね。私はその場の緊張を和らげるのにマジックは適していないと思っています。これには世界中の悪いマジシャンたちにその責任があります。

もっと端的にお伝えしましょう。一般的にマジシャンは格好いいと認識されていません。世の中には自分勝手に、観客に嫌がられている老人のマジシャンがあふれています（若手マジシャンにもたくさんいます）。あなたが全く見知らぬ女性に近づいて、いきなりカードを一枚抜いてもらうように頼んだとしましょう。言われた女性はマジックを観たいと思うより、その場から立ち去りたいと思うはずです。

むしろマジックは切り札として非常に役に立つはずですが。感じよく振る舞い、相手を楽しませながら会話を続け、自分が得意なこの話になったらマジックのことに触れてみましょう。「いやいや、ミュージシャンではなくてマジシャンだよ。僕はマジックをしているんだ」というような感じで話をするのです。

間違いなくここでマジックをしてほしいと言われるでしょう。そこで「いいですよ。後でお見せしましょう」などと答えてください。観客や友達が関心を持った時だけマジックを使いましょう。これが特別なきっかけを生む秘訣です。

学校でマジックを演じたほうがいいのでしょうか？

「学校内でマジックをする人間には彼女ができない。」

—ペン・ジュリエット『クルーエル・トリック・フォー・ディア・フレンド』

マジックのことを学んでいると次第に純粋に驚かせる瞬間というものがとても特別な体験の一つなのだということが分かってくるでしょう。そしてあなたのマジックでその瞬間を作り出すことができたなら、それが特別な体験というだけではなくとても尊いものだということも理解できるはずです。そういう感覚は授業の合間にマジックをするだけでは決して得られるものではありません。

学校はマジックをする場所として良くもあり、悪くもあります。子供はマジックが大好きですが、他の子供に対してやきもちを焼くものです。タネが分からないマジックを見せられたら、周りの友だちの反応はとても否定的になってしまいます。

しかし、学校でマジックをすることで、いい活躍の場を与えられるかもしれません。演芸大会やボランティア活動、それに放課後に行われる様々な活動の中で余興のできる人が求められています。そういった場であなたはショーの主役になることができるのです。

子供を得意とするマジシャンなら誰もでも知っていることですが、10代の若者は生まれつきマジックに対しアレルギー反応を示します。この年代の若者に合わせることができないマジシャンはなかなかいません。人に馬鹿にされたり、スポットを浴びたりするのが苦手で、他の人に出し抜かれることを嫌がります。マジシャンの誰もが苦手とするグループなのです。ですからあなたが中高生のマジシャンなら、お友達には気楽にマジックを見せるようにしましょう。

ただ、学校は今後のあなたのマジックに役立つことも提供してくれます。地元の演劇科に入学するのもいいかもしれません。そこで照明や美術、発声方法などを学ぶのです。きっとあなたのショーに役に立つでしょう。

私はかつて演劇の先生に相談し、自分のショーのセットについて授業で取り上げてもらい、一緒に考えてもらったことがあります。そのおかげで、“マジストロ”先生は授業で本物のショーで使えるセットデザインを教えるきっかけを手に入れ、私は背景の幕を無料で手に入れることができました。

アンディ・グラッドウィンが学校でマジックを演じた時のこと

アンディ・グラッドウィンは10代の頃からマジック・コミュニティで頭角を現してきました。しかし彼は私たちと同様、学校でマジックを演じることで様々な問題を経験しています。彼にこのテーマに関してどう思っているのか聞いてみました。

アンディ：かつて私はオタクでした。学校内でもITクラスの先生にコンピュータの解説をするほどオタクでし、体育の授業を休むための理由書を自分で書いたりもしていました（しかし、自分の周りで噂されていたように、学校にブルーケースを持って行くようなことまではしていませんでした）。

私は明らかに社会性に問題があるにも関わらず、周りの人はこの「マジシャン」とよく遊んでくれました。みんながマジックを見たがるので、学校を横切るだけで1時間かかるとからかわれました。私はマジックのおかげで社会と交流する術を学ぶことができ（正しくは社会性のあるオタクですが）、友達の輪以外の人と出会う機会を作ることができました。たいてい少人数のグループに対して演じていましたが、時には100人以上の子供が集まってくることもありました。私は遊び場にいる子供たちを自由に先導することができるようになり、当時は有頂天になっていました。

ところが一日で全てが変わりました。トランプを悪魔の産物だと考える先生が出てきて、学校内での使用を禁止したのです。私はトランプがUSプレイングカード社の製品だということを丁寧に説明しましたが、彼女の気持ちをかえることはできませんでした。私は彼女に一ヶ月で20個ものデッキを取り上げられました。

禁止されたことを最初のうちは不幸だと思っていましたが、結果的に私にとって良い経験となりました。私はその場にあるものを使ってマジックをするというスタイルを身に付けました。例えばペンや紙、輪ゴム、教科書、靴紐など、目に付いたものでトリックをするのです。やがて学校側も私のマジックのプラス面に注目してくれ、禁止を解除してくれました。私は学校のイベントにもたくさん出演するようになり、外部のイベントのために雇われるようにもなりました。16歳になる頃には、3人の綺麗なアシスタントとともにイリュージョンを演じることができるようにもなりました。

マジックを学校で演じることによって、社会性を身に付けるだけではなく、周りのものでマジックをすることの重要性にも気付くことができました。しかもオタクでもガールフレンドを獲得できるので、とても素晴らしいことではありませんか。



嫌がらせをする人にはどのように対処すればいいのでしょうか？

「毎回、観客の全員を楽しませることなんてできやしない。昨夜の私のショーではみんな楽しんでくれたみたいだがね。」

—ミッチ・ヘッドバーク

若い人こそ嫌がらせによって影響を受けやすいものです。嫌な人というものはマジシャンが若ければ遠慮をしなくなります。なぜなら、そういう人はマジックのレベルと演者の年齢を同一視しているからです。つまり、「あの子はマジックをしているが、若い。ということは上手いはずがない」と結論してしまうのです。

私が「嫌がらせをする人にどのように対処すればいいのか？」と質問を受けたら、まず「その質問自体が間違っている」と返答しています。たとえ若いマジシャンであったとしても、観客がショーの流れを邪魔するようであれば、それは演者のしていることに問題があるからです。そんなやっかいな嫌がらせをなくすために、ここでは「マジシャンがしてはいけないこと」をお教えしましょう。

観客に対し失礼な態度を取ったり、挑戦するようなマジックを演じたりしてはなりません。例えば「見逃しましたね」とか、「ハズレ！ボールはこのカップの下ですよ」とか、「見破っててください」などという台詞は決して使わないでください。

観客が望んでいない状況でマジックを演じてはなりません。夕食のテーブルでマジックを見せてほしいと頼まれたとしても、興味を持っていない人がいれば別の機会にしましょう。

突っ込みやすいポイントを作ってはなりません。嫌な人はそういうところを狙っています。そのタイミングを与えないようにしましょう。

下品な言葉やジョークはどこまでのレベルなら許されるのでしょうか？

この本では自分の人間性をいかにマジックに投影することが重要であるかということをお話ししてきました。舞台上では自分らしくあることが最も重要です。そうすると自然に自分の限界を押し広げることができます。デートのことで頭がいっぱいであったり、下品な言葉を頭の中で考えていたりすると、全く魅力のないマジックを演じてしまいます。こうした誘惑には打ち勝たなくてはなりません。

アメージング・ジョナサンは自分のショーで品のないマジックを演じていますが、観客はそれを大に楽しんでいます。彼はコメディの分野では間違いなく天才です。私は彼のショーを観て、自分が彼のようににはなれないことと私が演じる場所はラスベガスのラウンジではないことを十分に悟ることができました。

若いパフォーマーから挑発的な言動を受けるのはとても不快です。中には下品なユーモアが好きな人がいますが、それを未成年者から聞きたいなんて人はいません。だから、ディナーテーブルで観客とトラブルになりそうであれば、そのマジックを続けてはならないと肝に銘じておきましょう。

私は特定の単語がマジックのインパクトに影響することを発見しました。特に子供たちにとっては、悪い言葉ではないけれども耳障りで不快に感じる単語というものがあります。可能なら「SILLY」や「CRAZY」という単語を、「STUPID」、「DUMB」、「UGLY」などの言葉に置き換えましょう。

汚い言葉や下品なジョークを絶対に口に出してはならないと言うつもりはありません。もし私が15歳なら、そう言われても従わないでしょう。でも、私がここでお伝えしたいのは、そういった言葉は控室だけで言うべきであって、本番の舞台の上ではクリーンなイメージで演じるべきだということです。

ジョエル・ワードはオリジナリティに溢れた斬新な演技をします。彼は若いことの利点について次のように言っています。

ジョエル: 若いマジシャンなら大人のマジシャンには決して許されることができません。観客はあなたのことやあなたの関心を持っていることについて、普段の時よりも受け入れてくれるでしょう。あなたが好きなものとか得意なスポーツ、チェスが好きならチェスのことなど、そういった要素をマジックに取り入れてみましょう。大人の人は確固たる意志を持った若い人が成功するところを観たいと思ってくれるはずです。こういった傾向を利用しつつ、新しいものにチャレンジしていきましょう。上手いかもしれないこともあるかもしれませんが、成功するものもあるはずです。そういったものに時間と労力をかけることこそ価値があるのです。



エゴにはどのように対処すればいいのでしょうか？

マジックはエゴをコントロールしなければなりません。エゴとはあなたの自意識のことであり、観客の自尊心のことでもあります。どちらもあなたのマジックが影響してしまいます。何もあなたがうぬぼれていると言いたいわけではありません（ただし、うぬぼれないようには注意しましょう）。私はここで、あなたが若くて素晴らしいパフォーマーであることによって生じる問題についてお話ししています。つまり、あなたの自意識が強く表に出てしまうと、それだけで観客の自尊心を傷つけてしまい、結果的に自分自身への風当たりによって跳ね返ってくるのです。

若いマジシャンが小難しいマジックを演じ、しかもそれを上手にこなしていると、嫉妬深いお友達や老人のマジシャンの繊細な自尊心を刺激してしまいます。またマジックは、現象と自分自身を表現するため少なからず堂々としていなければならないため、これが「気取っている」とか「生意気だ」などと誤解されやすいのです。

それでは、このような他人の嫉妬を抑えるにはどうしたらよいのでしょうか。実のところきちんとした対処方法はあまりありません。あなたがコントロールできるのは自分自身のエゴだけだからです。ですから、ショーの間は特に礼儀正しくし、見せびらかしたりせず、観客に挑戦するようなことはしないでください。

もしかするとあなたも時折敵意あるコメントを受け取ることもあるでしょう。でもその嫉妬はあなたをうらやましいと思うからこそ生まれているのだと考えて、自分を慰めてください。つまり遠回しには誉め言葉でもあります。とにかく調子に乗るのだけはやめてください。

デビッド・オリバーが語るマジックショーを観るときの心構えについて



客席にいる時はデッキを持ってシャッフルしたり、何かを練習したりしてはなりません（他の道具であっても同様です）。また、ショーの最中にタネや手順について小声で解説するのもやめましょう。そういう話はショーが終わってからするか、家に帰ってからにしてください。マジシャンではない人がマジックの秘密を知ったり、耳にしたりすることがないようにしてください。

また、客席では他の観客と同じように振る舞いましょう。演技の途中でメモを取ったりせず、必ず拍手をし、笑い、笑顔を見せてください。マジシャンが他の観客を差し置いて、あなたをお手伝いとして指名するように仕向けなくてください。手伝ってもらうならあなたのような全く驚かない人ではなく、疑うことを知らない一般の方のほうがいいはずですよ。後方の座席に座り、リラックスして、マジシャンがどのように一般人を扱うのかを観て学びましょう。一般の人の体験を尊重するようにしてください。

マジシャンに話しかけるのは、ショーが終わって他の観客が帰るのを待ちましょう。許可なく舞台裏に入ってはなりません。自己紹介の仕方とタイミングに気を配ってください。他の人との会話が進行中なら、そばで終わるのを待ちます。マジシャンが忙しくなさそうなら、自分から近づいて自己紹介をします。話す時間があるか確認をしつつ、自分がマジシャンになるために勉強中であることを伝えてください。あなたのような年代なら、表向きにはマジックを「練習中の身」であって、「プロのマジシャン」であるはずがありません（私の個人的な見解で申し訳ありませんが）。最後に、もう一つ。相手を尊敬することは自分が尊敬されることでもあるということは覚えておいてください。

マジックのコンテストに出場したほうがいいのでしょうか？

マジックのコンテストは必ずしも有益なものではなく、だからといって全く役に立たないとも言い切れません。とてもひどい演技なのに入賞することもありますし、完全なオリジナルでも入賞できないことがあります。過去に不正が行われたこともあり、不正のために入賞できなかった演者が、審判の奥さんを平手打ちしていた場面を見たこともあります。ただし、多くのマジシャンは、自分の演技を磨き上げ、新しい演技を披露するためにコンテストを利用しています。国際的に評価を受けることが仕事のオファーに結びつくからです（実際のところ、マジックのコンテストはTVのリアリティ番組の題材にもぴったりです）。

マジックのコンテストに出場したほうがいい理由とそうではない理由を、それぞれ順番に確認してみましょう。

出場したほうがいい理由

かけがえのないフィードバックが得られます。マジックのコンテストでは審判員に演技の審査をされますが、終わった後で審査員たちから意見や点数を聞くことができます。審判員には博識で聡明な方もいれば、無知で無能な人もいます。しかし、全体的には有益なアドバイスを得られることでしょう。そしてなにより、コンテストで演じるということはマジシャンの前で演じるということでもあります。だから演技の後で周りの人に聞いてみれば、いろんな人からフィードバックが得られるはずです。

ダニー・コールがコンテストについて思うこと

ダニー・コールにマジックのコンテストに対して思うことを聞いてみました。当然ながら、彼にはマジックのコンテストについて語る資格があります。例えば、彼はデザート・マジック・セミナーで1位を獲得しています（その結果、ランス・バートンの特別番組に記念出演することになりました）。1999年、ダニーはアカデミー・オブ・マジカルアーツに、「優れた若手の業績」で表彰されています。また、彼はワールド・マジック・アワードのテレビ特番で、「ライジングスター・オブ・マジック」を受賞しています。



さて、ダニー。マジックのコンテストであなたは何を学びましたか？

ダニー：コンテストに出場したのは私のスキルを試したいと思ったからですし、いい成績を残すことでプロになるためのきっかけや励みとなりました。本物の舞台で演じる機会を得ることができましたし、時には素晴らしい劇場で、他では経験できないくらいのたくさんの観客の前で演じることができました。こういった経験によって、適切なタイミングや手順構成についてだけでなく、実際のパフォーマンスで起きた問題を解決する方法についても学ぶことができました。

それに、マジックのコンテストではマジック業界の最新トレンドに触れることができます。コンテスタントからは新しく新鮮なマジックのアイデアが得られます。インスピレーションを受けるには最適な時間です。

自分の演技を磨き上げる動機になります。コンテストに出場することで新しい演技を追い求めるモチベーションが上がります。多くのマジシャンがコンテストの日付を自らのデビューの日付として位置付けています。まさに、「4月18日のマジックコンテストでステージアクトを披露できるように頑張ろう」というような気持ちで、コンテストに臨んでいる人も多いでしょう。

自分のキャリアの1ページとなります。マジックのコンテストで入賞することができたら、そのことを得意げに人に話すことができます。それに「マジックコンテストで優勝」という称号を自分のプロモーション活動に使うことができます。一般の人はあなたがどんな分野で入賞したかなんて気にしないでしょう。つまりFISMで入賞したとしても、または地元のマジッククラブのコンテストで優勝したとしても、それを一般の人に区別することはできません。紙面に書かれた経歴であればどんな大会でも同列に見えます。だからとても大きな宣伝効果があります。

世界で活躍できるかもしれません。成功したプロマジシャンはショーのために外国へ行くことはありません。なぜなら地元の仕事をこなすことで精いっぱいだからです。あなたがもし外国への憧れを持っているなら、マジックのコミュニティがそれに応えてくれるでしょう。私が1998年にワールド・マジック・セミナーで入賞した時、日本、オーストラリア、フランス、アイスランド、アルゼンチンなど、想像もしたことがないような外国へのチケットを手にすることができました。コンテストで賞を取れるようなユニークなアクトを完成させることができたなら、世界中でそれを提供する仕事があることでしょう。

出場しないほうがいい理由

お金にはなりません。一般的にマジックのコンテストで設定されている賞金は、マジックショーでのギャランティの1回分か2回分と同じくらいです。ところが、コンテストは何か月も毎日練習しなくてはなりません。労力と成果の関係でいうととても効率的ではありません。

かなり練習が必要です。マジシャンの中には、マジックのコンテストを新しい手順を発表する機会にしているという人がいますが、私はこの意見に反対です。マジックコンテストの観客はマジシャンですが、それはお金を払って観に来た観客です。だからコンテストを実験の場にすべきではないと思います。賞を争うのであれば正々堂々と競いましょう。また、そのためには入念に準備してから出場してください。

勝つことにこだわらなくてはなりません。マジックのコンテストは、アートとしてのマジックを進化させる貴重な場であると私は考えています。マジック界にはコンテストに真剣に取り組んでいる人がたくさん存在しています。それも毎年のように出場している人が、どこの場所にもいます。しかし皮肉なことに、それが必ずキャリアに結びつくとは限りません。

私が小学生の頃、バスケットボールのチームメイトにブライアンという男の子がいました。ブライアンは誰に対しても勝つことに一所

懸命でした。一番いいスニーカーを履き、一番強いチームに所属し、一番多く点を取ることにこだわっていました。全てにおいて「一番」であることを望んでいたのです。そして、彼は時々「一番」になることができ、彼の家にはトロフィーがたくさん飾ってありました。

では、その彼に対して周りの人はどう感じていたのでしょうか。私はブライアンに付いていくことができませんでしたし、他のみんなもそうでした。

コンテストに出場するには強い意志と実力が必要です。それでもあなたが出場するというのであれば、私から一つアドバイスを差し上げましょう。「コンテスト用の演技」だけはやめてください。こういった演技は実社会で実用性がありませんし、マジシャンの前でだけ通用する業界の専門用語と言っても過言ではありません。

コンテスト用の演技というものは、このテーマのために訳も分からずたくさんのものを出現させるだけの馬鹿げた演技であることも多いです。そして、始め、真ん中、終わりといった自然な流れで構成されておらず、審判員が高く評価しそうなマジックの技法だけが詰め込まれています。マジックのコンテストでこういった演技が賞を取ることがありますが、他の場所で演じられることはめったにありません。石鹸のマニピレーションやリッツのクラッカーを使ったマトリクスをマジックを知らない一般の人が観たいと思うのでしょうか。コンテストはマジックマニアやマジシャンに向けた演技ではなく、新しくエキサイティングな素材に挑戦するための出発点でなければならないと思います。

デビッド・パールがマジックのコンテストに対して思うこと

デビッド・パールは『ブレイン・フード』の著者であり、『マジック・ミラー』の共同執筆者です。彼はマジックのコンテストに対して別の考え方を持っています。

ジョシュ：あなたはマジックのコンテストには出場する意味がないとお考えのようですが、それはなぜでしょうか？

デビッド：マジックとはパフォーミング・アートであり、クリエイティブな表現方法の一つの形だと思っています。自分を成長させたいと思っている人や新しいアートを追い求めている人にとって、マジックのコンテストは役に立たないと思います。もし、学習して成長することが目的で、クリエイティビティを高め、持っているスキルを鍛え、新しいスキルを見つけたり開発したりすることを目指しているのであれば、そのエネルギーを審判員に向けるべきではありません。審判員は私の利益を第一に考えてくれるわけではありませんから。



ジョシュ：その「利益」とは、一体どういう意味でしょうか？

デビッド：このアートにおける自分自身の学習と成長のことを指しています。コンテストの審査員は受け入れられる表現のモデルに従った演技を高く評価する傾向があることに、私は何年も経ってようやく気がつきました。つまり過去に受け入れられた演技に似たものや現在流行っている演技などが入賞する傾向があるのです。例えば私が新しいものを採り入れ、新しいアイデアを試し、能力を伸ばしたいと思ったとしたら、権威のある人が好みそうなことを推測するのではなく、学ぶこととクリエイティブな実験に挑戦することに努力の矛先を向けるべきでしょう。

ところが、もっと大きな問題点がそこにはあります。クリエイティブな人にとって最も大きな障害となるのは、判定されることと比較されることです。私も30歳になるまでこのハードルを乗り越えられずにいました。心から尊敬しているマジシャンと自分自身や自分の作品を比較したとき、私は無力で敗北したように感じました。そういった人と同じくらい素晴らしいものを考えたり演じたりすることはできないし、全く同じようになれないと考えさせられました。最終的に私は他人と比較し、自分自身を評価することを止めなければならないことに気が付くことができました。そうしなければ自分にどれだけのものを作る力があるのか、またどれだけのことを成し遂げる力があるのか、一生分からなかったことだろうと思います。コンテストは判定と比較によって成り立っていますが、それに固執してしまうと、クリエイティビティにとって大きな阻害してしまうのです。

ジョシュ：マジックのコンテストに出ることなく、マジックを学び、上達させたい人がいるとすれば、あなたは何をお勧めしますか？

デビッド：地元のマジッククラブや大会で「未完成の作品」を演じる機会を作ってください。あるいは周りにいるマジック仲間でも構いません。その際は、未完成でまだテストしたことがなく、方向性や改善が必要で、全く改良を施したことがないような作品を見せてみましょう。そしてその場にいる人から、提案や感想を紙に書いてもらってください。私も友人たちとこのような場を何度も設けてきました。終わった後は、必ず自分のマジックに改善を施すようにしてきました。私はこれが成長と学習を促す最善の方法だと思っています。

何か私にトリックを教えていただけませんか？

喜んで。そもそも若い人向けのマジックの本というものは、大半が若いパフォーマーに対して書かれたものではありません。そういった本は読者にスキルや経験がないことを前提に書かれており、真剣にマジックに取り組もうとしている人にとってはイライラすることでしょう。私はここで日常生活でも使えるテクニックを2つ選びました。そのどちらも違った内容で解説いたします。それぞれのテクニックを使った初歩的ですがインパクトのあるトリックをお教えしますので、実際の演技にどのように応用すればいいか理解していただけるでしょう。その次に「フラッシュカード」と「インフレーテッド・トランスポジション」という演技をご説明しています。どちらの演技にも若い人向けの台詞を一緒に掲載しています。現象・手段・プレゼンテーションは、マジックに真剣に取り組む若いマジシャンにふさわしい内容になっています。

アンダー／オーバー

フォールストランスファー

手の中に物を握るとそれが消えてなくなります。シンプルかつ上品で、状況に応じて様々なトリックに応用できます。友達にガムを差し出して、手渡す前に消してしまいます。靴の中に入っていた石を拾い上げて、それを消してしまい、今度は他の人の靴から取り出してみせます。砂糖のパックをテーブルに貫通させたり、ニンジンをもっとチップに変化させたりすることができます。

これは全てフォールストランスファーのバリエーションです。おもちゃ屋さんにたくさんのフィギュアが並んでいるのと同じで、世の中にはバニッシュの方法がたくさんあります。しかし、ここで解説するのは最も簡単な方法で、いろいろと応用が利くものです。クラシックパームは必要ありません。他のハンドリングと違って、消すことができるのはコインや平べったいものに限りません。カップ・アンド・ボールの手順に組み込むこともできますし、ペンのキャップや犬用のおやつを使って、即興のマジックにすることも可能です。

まず始めに、その品物を人に示します。例えばボトルキャップを右手に持ちます。右手は手のひらを上にして、その物は右指の付け根に置きます（写真 1）。右手の親指が人差し指の付け根のところにあることに注目してください。そして何より右手をリラックスさせてください。視線は右手のボトルキャップを見つめます。体の向きをわずかに右側に向けます。そのためには体重を全て右足に移動させると良いでしょう。



キャップを左手に手渡したように見せるため、手、目、体を一体となって動かします。実際にはキャップを右手に残したままです。このとき両手は腰の高さにします。右手を動かしながら、手のひらを下に向けます。手首を動かす間、右手の親指を右手の中に握りこむようにして、キャップをその場所に固定させます（写真 2）。右手の親指はゆっくりとソフトに動かし、右腕の大きな動きでカバーします。右手のひらが下を向いているので、観客には親指の動作が見えることはありません。

この時、左手は手のひらを上に向け、右手からキャップを受け取る振りをします。右の手のひらが下を向いて床と平行になるタイミングで、上に向けた左手のひらと重ね合わせます。キャップは左中指の腹に触れますが、手渡すことはなく、右手にそのまま残します（写真 3）。



それから左手を左方向に動かします。右手から離していきながら、左手の指は優しく握ります。拳を作るのではありません。指で蓋をするのです（写真 4）。左手を動かしながら、左手首を回転させて手のひらをわずかに下に向けます。

ボトルキャップを左手で受け取ったように見せるため、目は左手の指を見続けます。この時、右手の動きは重要ではないと思われなければならないため、右手を意識してはなりません。ボディランゲージでもキャップがどこにあるのか一目で分かるようにしなければなりません。左手でキャップを取る動作の中で、体重を左足にシフトさせます。すると体の向きもわずかに左手の方向に向けることになるでしょう。

左手を左の方向もしくは観客に向けて動かし始めたそのすぐ後に、右手を元の位置に戻します。右手を体の横にただ「下ろす」だけです。右腕をだらりと力を抜いたまま、何度か肩だけで動かします。

意識は左手に向けていますが、握った手を揉んでから開いて、ボトルキャップが消えて無くなったことを示します。



ブレスレス

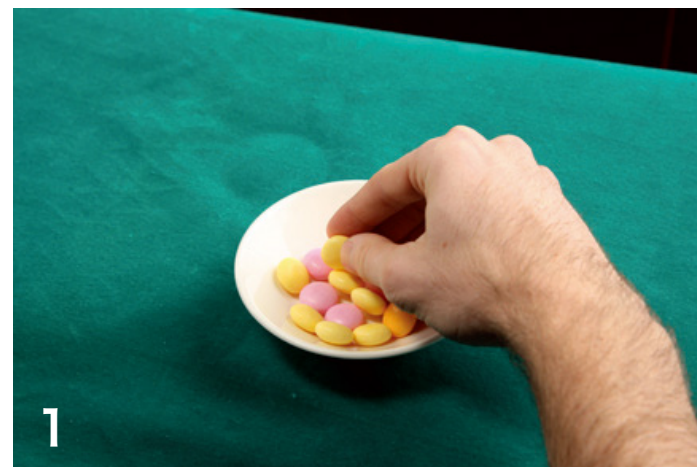
このマジックはフォールストランスファーの応用編です。演者はミントキャンディーを2回続けて消してみせます。レストランやホテルでキャンディーがお皿に盛ってあれば、演じるのに好都合です。この現象は完全に即興で行うことができます。

ミントの入ったボウルに注目してもらい、右手を伸ばしてその中から一つを取り出します（写真1）。右指の付け根に置いてミントを観客に示します。それからフォールストランスファーを行います（写真2、3、4）。ミントが左手からなくなったことを示し、もう一度やってみせると言います。右手のミントを隠したままで、右手を伸ばしてボウルの中に入れます。他のミントを取るように見せますが、実際にはパームしていたミントをボウルの中に戻してしまいます（つまり、他のミントに完全に混ぜてしまいます）。右指と親指を合わせ、あたかも他のミントを持っているかのように握ります。実際にはこの時、右手には何も持っていません。

ボウルから右手を離しますが、その右手をじっと見つめます。今回はゆっくり動かし、最初よりもわざとらしくします。なぜなら観客は演者のことを注意深く観察しているでしょうし、今回は（ミントを持っていないくて）最初の（フォールストランスファーを使った）時とは手法が全く異なるからです。

右手のミントを左手に渡した振りをします。ここで演者は左手に実際には握ったように見せますが、フォールストランスファーの動きと全く同じになるようにします。今回は右手には何も持っていないので、右指には何の役割もありません。全てがハッターです。

目は左手を真剣に見つめ、左手はミントを持っているかのように握ります。左手を右手から離し、そして2つ目のミントが消してしまいます。今回は両手に何も持っていないことを示します。そして次に「ミントがどこに行ったか分かりますか？」と観客に尋ねます。自分の口元を指差して、舌なめずりをしながら「息がすっかりきれいになりました！」と言って終わります。



フォールストランスファーの動き



クロスカットフォース

もともとのオリジナルは「クリスクロスフォース」と呼ばれています。マックス・ホールデン^{*12}が考案した素晴らしい技法です。このフォースは全て観客が行ったように見え、しかも即興で演じることができます。

フォースするカードをトップに置いておきます。デッキをテーブルに置き、観客に上から半分を持ち上げてカットするように依頼します（写真1）。観客が持ち上げた上半分を受け取り、テーブルにある下半分の右側に置きます。

「あなたが分けたところに目印をつけましょう」と言い、それから「もう一つのほうを横向きに置きますね」と言いながら、デッキの下半分を上半分の上にクロスさせて置きます（写真2）。

ここの「タイム・ミスディレクション」がとても重要です。つまりほんの一瞬だけ、カード以外のものに注目してもらい瞬間を作るのです。今から何が起きるか説明してもいいでしょうし、観客に対して「違う場所でカットしますか？」と尋ねたり、何かジョークを言ったりしてもいいでしょう。ほんの10秒間だけで構いませんので、観客の意識をデッキからそらします。

再びカードのほうに注目してもらい、クロスさせたところから上半分を持ち上げます（これは実際にはデッキの下半分になります）。「こ



^{*12} 詳しくは1952年7月10日発行の『マジカルマンスリー』第2巻、199ページの「新しいナイフと選ばれたカード」をご覧ください。

れがカットしたところのカードのです」と言いながら、残ったパケットのトップカードを観客に手渡します。このカードはデッキの真ん中から選んだように見えますが、実際にはフォースしたカードです。もしデッキを元通りに戻したい場合は、テーブルのパケットを手を持っているパケットの上に重ねてください。

コール・ザ・ウィザード

マジシャンは選ばれたカードを当てることができなくて、友達^{ウィザード}の「魔法使い」に助けを求めます。マジシャンの携帯電話の電話帳から観客に「魔法使い」を検索して見つけてもらいます。観客にそのまま電話をかけてもらいますが、そこで電話に出たのは本物の魔法使いでした。電話越しに魔法使いが観客の選んだカードの名前を当ててしまいます。

トリックの仕組みは簡単です。事前に決めておいたカードをフォースして、友達には電話越しにそのカードを言うてもらいだけです。友達の携帯電話にあなたの番号を登録しておいてもらいます。この番号から着信があれば、その人には魔法使いとして電話に出てもらうようお願いしておきます（魔法使いではなく、他の役でも構いません）。またその人には必ずフォースしたカード、例えば「ダイヤの7」だと言うてもらいように打ち合わせしておきます。

演技ではその「ダイヤの7」をフォースするだけです。好きな方法で構いませんが、よろしければ先ほどお教えしたクロスカットフォースを使ってください。それから、カードを当てようとして失敗するのを何度か繰り返します（「これですか？ 違う？ じゃあ、これは？」などと演技してください）。

「カードを当てることができないので、魔法使いにお願いしてみましょう」と言い、携帯電話を観客に渡します。電話帳を呼び出し、「ま」行までスクロールしてもらいます。そして魔法使いの番号を押して電話します。

あとはお友達の演技にかかっています。上手くいけば、そのお友達が風変わりな人物を生き生きと演じてくれるかもしれません。例えばこのような感じです。

「もしもし、失くしたものの探しと宿題の代行が得意な魔法使いのウィリアムです。誰？こちらに電話するのは初めて？もしかしてカードのこと？やっぱりね！それならこの魔法使いのウィリアムに任せておいて。早速、君が覚えたカードを当ててみせるよ。君が覚えたのは…赤いカード、…しかもダイヤ、…もしかしてダイヤの7？ほらね！まあ、もっと話したいところなんだけど、他の子供たちも待っているから、それじゃあね。」

インフレーテッド・トランスポジション

マジシャンは、ブラジル人マジシャンから見せてもらったマジックを再現してみようと言います。ブラジル人はドルの代わりにリアルを使用したのですが、今回はアメリカのお札を使ってそのマジックををすると言います。

彼は1ドル札を取り出しますが、観客からは5ドル札を貸してもらいます。どちらもよく調べてもらい、八つ折りにしてから、観客に握ってもらいます。マジシャンは1ドル札を抜き出し、それを5ドル札に変化させます。ところが観客が手を開くと、元々マジシャンが持っていた1ドル札ではなく、ブラジル人マジシャンが使っていたというリアル紙幣になっています。

私がこの手順を思いついたのは全くの偶然からでした。U・F・グラントの「スローモーション・ビルチェンジ」（『ターベルコース・イン・マジック』第3巻、1927年）の手順を研究していたのですが、その当時、私はユージン・バーガーの「スローモーション・ビルチェンジ」（『クラフト・オブ・マジック』1984年）を使っていました。それから私はデビッド・パールの「スローモーション・スウィンドル」（『ブレイン・フード』1998年）とロジャー・クラウスの「アルティメット・スローモーション・ビル・トランスポジション」を覚えました。これらの手順はあらかじめタネを仕込んだお札を使います。それからしばらくして、折りたたんだドル札のデュプリケートを使う手順を自分で考案しました。結果として他の手順と同じ現象を起こせることに気づき、それから面白い見せ方を試していきました。私はこのハンドリングをよく演じていましたが、それは財布の中に同じお札が2枚あるだけで実演可能だったからです。

かつてそのトリックを演じようとしたとき、同じお札を2枚見つけられなかったことがありました。100ドル札の両替を忘れていたのです。ふと思い付いて、とにかく手元のお札で試してみました。デュプリケートの代わりに100ドル札を観客に握らせました。するといつもより大きな反応を得ることができました。現象には変化の要素（前半）があり、そして驚かせるオチもあったためです。

あなたがまだ若い人であれば、100ドル札を常に持っているとは限りませんし、100ドル札を持っていることが好ましいとも思えません。だから、クライマックスを外国の紙幣に変えました。どこの国の紙幣でも構いませんが、ブラジルのお札はカラフルで丈夫です。コインショップに行けばそのような外国の紙幣を安く手に入れることができます。私はお札を「Z」の形に折り曲げて回転させる方法を思いついたのですが、後にレイモンド・L・ベープ博士が考案したものだと知りました（ヒューガード『マジックマンズリー』1963年3月号）。彼の「ペーパー・マネー・スイッチ」では事前に折り畳んだお札を使いますが、お札の変化のところで改造した紙幣を使わなくて済む方法を彼が編み出しました。

変化させる現象にアッと驚く結末が加えられていますが、これは別に目新しい内容ではありません。カードマジックなら同じような結

末になるものがいくつもあります。マネーマジックではフランシス・カーライルが考案したハンドリングで、1960年代にノベルティグッズとして流行った1ドル銀貨サイズのペニーを使ったものがあります。そのマジックでは観客の拳にペニーと銀貨を握らせませす。マジシャンはペニーを抜き取って、それを銀貨に変化させませす。観客はペニーを握っていると考えませすが、実は手の中にあるのが1ドル銀貨のサイズをしたペニーなので驚きませす。これを単に借りたお札に応用したものが、今回ご紹介するマジックになります。

準備

1ドル札とクライマックス用のお札が必要です。そして3枚目は何のお札でも構いませんので、観客に貸してもらいます。あらかじめ両方のお札をこれから説明するように折り畳みます。お札の顔が自分のほうを向くようにして、八つ折りにします（折り畳むときは常に観客側に折り畳んでいきます）。右半分を左半分に折り重ね（写真1）、さらに右半分を左半分に折り重ねませす（写真2）。最後にお札の下半分を上折りませす（写真3）。両方のお札をこれと同じように折り畳みます。

準備はとても簡単なのですぐできるでしょう。事前に折り畳んだお札を財布に入れておくと、その場で演じることができませす。上記でご説明したとおりに折り畳んだブラジルのお札を、半分に折り畳んだ1ドル札の内側に挟みこんでおき、その状態で演技を始めませす（写真4）。



演技

「よく人から今まで見た中で一番凄いマジックは何かと尋ねられます。今回はそのマジックについてお話ししましょう。これはブラジルのマジシャンが私に見せてくれたマジックです。トリックの名前も知りませんし、やり方も分かりません。とにかく凄かったことだけは覚えています。できる限りそれを再現してみましょう。彼はブラジルのリアルを使っていたましたが、私はドルを使います。」このように言いながら1ドル札をポケットから取り出します。折り畳んだ状態のままで1ドル札の両側を見せます。1ドル札の中には折り畳んだリアル札を隠しています。

「彼はその場にいる人からお札を借りました。どなたか私にお札を貸していただけませんか？」

観客にお札を貸してほしいと頼みます。観客の女性が財布からお札を取り出している間に、右の親指でリアル札を押さえて1ドル札を開きます（写真5）。ここでは女性を取り出したお札を5ドル札だと仮定しましょう。「ブラジル人のマジシャンは私に彼のお札を折るように言いました。彼は私のお札を折りました。このような感じです。ここまでは何もおかしいことをやっていませんよね。」観客のお札を左手に持ちます。このときお札の人物の顔が自分のほうを向いているようにしてください。

右手の中指を伸ばし、人差し指と中指の間に観客のお札を差し込みます（写真6）。こうすると左手で1ドル札を掴んで、右手から抜き取りやすくなります。隠されたままのリアル札はそのまま観客に借りた5ドル札の裏側に移動します。左手の1ドル札を観客に手渡して、自分と同じように折り曲げてもらいます。

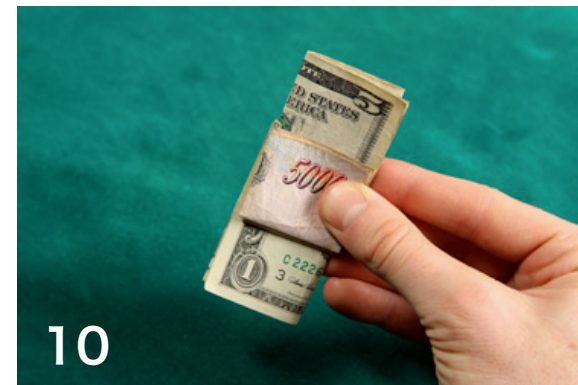
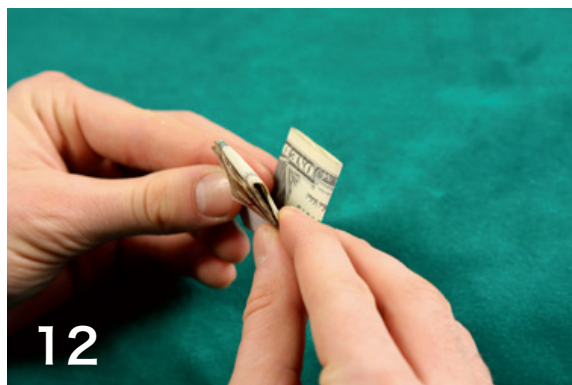
あなたが準備の段階で自分のお札を折り畳んだのと同じように、お札の人物が必ず外側になるように観客のお札を折り畳みます。つまり左端を外側に折り曲げて、お札を半分にします。この間もリアル札は折り曲げた5ドル札の裏側に隠しています。再び左側を右側に折り畳みます（写真7）。この時、右の親指でリアル札を左指の後ろに移動させます。写真7ではリアル札を左方向にかなりずらしていることにお気づきでしょうか。これにより右手がフリーになりますので、観客の5



ドル札の右側をきれいに揃えて折ることができます。

観客に口頭で説明しながらシンプルに4つ折りにしてもらいます。ただし、お札に描かれた人物の顔が外側にくるように注意してください。

観客の5ドル札を右手に戻します。右手の指に重なるように、隠されたリアル札をひそかに移動させます（写真8）。観客から1ドル札を返してもらい、借りている5ドル札の前に当てます。ちょうど下から半分の位置に合わせて、下に突き出すようにします（写真9）。この時、数字が必ず自分のほうに向くようにしてください。そして真四角にしたリアル札を、他の2枚のお札の真ん中に合わせて、その真裏に当てます（写真10）。お札が2枚重なっているので、厚みはあまり気にしなくても大丈夫です。ここで私が考案したZ折りをするのですが、ドル札を両サイドから折り畳み、Z型にします（すると片方は1ドルで、もう片方は5ドルが見えるようになります）。大胆ですが、見た目は変ではありませんし、疑ってかかる観客がいても気付かれません。まず、観客の5ドル札を前に向かって下に折り曲げ、1ドル札に重ねます（写真11）。次に1ドル札を前に向かって上に折り曲げ、観客の5ドル札の上に重ねます（写真12）。V字の2枚のドル札がお互いにかみ合って、折り畳まれたリアル札がその後ろに隠れています。



観客に右手を伸ばして手のひらを出すように言います。全てのお札を観客の指の上に置きます。重要なのはお札を手の手ひらではなく、指のほうに置くことです。あなたの右手でお札を観客の指に押し付け、指の中でレアル札が見えなくなる位置に置きます。観客に手を閉じてもらいますが、そのときもあなたの指を観客の手の手ひらにつけたままにして閉じてもらいます。こうするとお札全体が丸ごとひっくり返ります。手の手ひらに対して自然に指を閉じる動作によってお札がひっくり返るのです。観客の手から指を離し、手首を返して手の手ひらを下に向けてもらいます。これでお札全体がそのまま回転し、レアル札が一番下になります。

「ブラジル人マジシャンは私の手の中から自分のお札を取り出しました。」このように言いながら、観客の拳に手を伸ばし、ゆっくりと1ドル札と5ドル札を抜き取ります。折り畳んでいるのでお札と一緒に抜き取ることができますし、しかも1枚のお札のように見えます。観客は拳の中に残ったお札が感触で分かるので、抜き取ったのが2枚だとは思わないでしょう。

2枚のお札を重ねたまま指先に持ち、胸の高さに上げます。上下に右手を振りながらお札をひっくり返します。ひっくり返すのは上下に振る動作で隠さなければなりません。これで観客には借りた5ドル札が見えるようになりました。

「お札が入れ替わりました！ これはあなたのお札ですね…。あなたの手にはもしかして…？」などと話しながら観客のお札を広げていきます。意識はあなたが手にしているお札ではなく観客の手の手ひらに向かいますので、お札を広げるプロセスに注目が集まることはありません。観客の5ドル札を広げるには、1ドル札を左手の親指と他の指で押さええます。観客の5ドル札を反時計回りに90度回転させ、右側の開いたところに右手の指を差し込みます（写真13）。1ドル札は右手の親指にスライドさせます。観客の5ドル札を完全に開くと、1ドル札は4つ折りの状態まで開きます（写真14）。1ドル札は観客の5ドル札の裏に隠れています。

観客に手を開けるように指示します。そこで観客はお札が入れ替わっていたのではなく、レアル札に変化していることに気が付きます。レアル札を観客に広げてもらいます。

「待ってください！ ブラジル人マジシャンがトリックで使っていたのは、まさにこのお札です！」



レアル札を受け取り、人差し指と中指の間に差し込みます。右手から観客の5ドル札を取る際、レアル札の後ろに1ドル札をスライドさせて残します。これは冒頭で説明したのとまったく同じ方法です。レアル札と折り畳まれた1ドル札をポケットに入れて終わります。

フラッシュカード

「マジックが禁止されたときに私が何をしたのかお話ししましょう。」マジシャンはまずこのように説明します。「私の学校にはたくさんの校則があって、その中にはトランプの使用禁止というルールがありました。このルールに違反しないように私はトランプを自分で作りました。トランプと分からないようにするため、メモ紙の裏にトランプのカードを描きました。」そう言いながらマジシャンはメモ紙の束を見せます（写真 1）。メモ紙には単語や走り書きなどがたくさん残されていますが、裏面にはトランプの数字とマークが描かれています（写真 2）。

「学校では自作のカードを使ってマジックをしていました。これからその当時、演じていたものをお見せしましょう。カードをはじいていきますのでストップとおっしゃってください。」観客にはストップと言ってもらったところのカードを覚えてもらいます。マジシャンは観客に拳を作るように指示します。マジシャンは観客が握りこんだ拳の親指と人差し指の間にメモ紙のカードを 1 枚ずつ差し込んでいきます。およそ 20 枚のカードをでたらめに差し込みます（写真 3）。それからマジシャンは次のように宣言します。「今からカードの束を叩いて、あなたが選んだカードを手から落としてみせましょう。」

マジシャンは観客の手にあるカードを叩きます。なんと観客の手からメモ紙のカードが全て落ちてしまいます。しかし驚くべきことに、観客の手には本物のトランプのカードが残っていて、それはまさに観客が選んだカードなのです。「でもお話ししたように、学校にトランプを持ち込んではいけないことになっています。だから私は居残りさせられたのですよ！」



準備

52 枚のメモ紙でできたカード、本物のトランプが 1 枚、そして輪ゴムを使います。メモ紙のカードは新しく作るより、過去のプレゼンやスピーチなどで使った裏紙をリサイクルするとより本物らしく見えます。それぞれのカードの白紙の面に、トランプの絵を描きます。絵は本物らしくなくて、手作り感のあるほうが良いでしょう。それぞれのメモ紙のカードにトランプの絵をバラバラに描きます。

トランプのカードがフォースするカードになります。ハートの 6 だとしましょう。メモ紙のカード (ハートの 6 以外) を何でもいいので 1 枚抜き出し、はさみを使って右端の角を少し切ります (写真 4)。このカードをショートカードに加工するのです。メモ紙のハートの 6 を抜き出し、ショートカードの上に乗せておきます。そしてこの 2 枚のカードをくっつけて真ん中に入れておきます。右下の隅をボトムからトップに弾いていくと、ショートカードのところで止めることができます。次のカードがハートの 6 になり、つまりそれがフォースするカードになります。

そして最後は、本物の「ハートの 6」を裏向きにしてボトムから 2 枚目にセットしておきます。輪ゴムをかけて全てをまとめておきます (また、こうすると「ハートの 6」のカードが落ちなくなります)。

演技

「マジックが禁止されたときに私が何をしたのかお話ししましょう。」このように言って始めます。「私の学校にはたくさんの校則があって、その中にはトランプの使用禁止というルールがありました。このルールに違反しないように私はトランプを自分で作りました。トランプのカードと分からないようにするため、メモ紙の裏にトランプのカードを描きました。」メモ紙の束から輪ゴムを外し、トップのカードを何枚か広げ、ひっくり返してバラバラのカードであることを示します。

「学校では自作のカードを使ってマジックをしていました。これからその当時、演じていたものをお見せしましょう。カードをはじいていきますのでストップとおっしゃってください。」左手でカードを揃え、左下の隅を左手の



親指と他の指で挟みます（写真 5）。右手の人差し指をデッキの右上の隅に当てて、カードの表面から弾いていきます。観客からストップという声がかけても、カチッと感じるまでリフルします。カチッと感じるということは、つまりショートカードのところで止まるということです。このフォースはタイミングが必要ですが、それほど難しいものではありません。単に観客のかけ声を無視して、ショートカードのところで必ず止まるようにするだけです。

デッキをこの場所で分け、右手の人差し指で引っ張って「ハートの 6」の絵を観客に見えるようにします（写真 6）。このポケットは左指でしっかり持つようにしましょう。観客がカードを覚えたら、右人差し指を離してカードを戻します。ここでフォールスシャッフルやフォールスカットをしても構いません。

「握りこぶしを作ってください。」自分の手で拳を作ってみせますが、必ず右親指を人差し指の上に乗せてください（写真 7）。

カードの束から 40 枚ほど抜いていきます。カードが全て必要なわけではないと言いながら、それらをテーブルの上に捨てるか、ポケットの中にしまいます。残ったカードを観客の親指の間に挟んでいきます。カードの何枚かは左右から突き出し、上に乗せたり下や間に差し込んだりして、無造作に散らかった状態のファンを作ります。自分の手に残ったのがメモ紙のカード 2 枚になったら止めてください（本物の「ハートの 6」は間に挟まれた状態です）。左手からボトムのカードを右手の指で取りますが、「ハートの 6」が見えないように注意してください。この時、左手にはメモ紙のカードが 1 枚残り、その下にハートの 6 が隠されています。どちらのカードも観客の親指に差し込みますが、右手のカードを束の一番上に差し込み、それと同時に左手でメモ紙と「ハートの 6」を他のカードの一番下に差し込みます。観客は他にもたくさんのカードと一緒に挟んでいるので、それが 2 枚あるとは分かりません。必ず「ハートの 6」が一番下になるようにしましょう（写真 8）。

そして次のように説明します。「今からカードの束を叩いて、あなたが選んだカードを手から落としてみせましょう。」そこで観客の手に挟んだカードを



しっかりと叩きます（写真9）。あなたの手は手のひらを下にし、指は開いた状態で叩いてください。その衝撃で、メモ紙のカードは全て観客の手から落ち、裏向きのカードだけが拳から突き出た状態で残ります。

「ちょっと待ってください！ それは本物のトランプですね。あなたが選んだカードは何でしたか？ ハートの6ですか？ ひっくり返してください…。」観客はカードが出てきたことと、それが自分の選んだカードであることにきっと驚くでしょう。「でもお話ししたように、学校にトランプを持ち込んではいけないことになっています。だから私は居残りさせられたのですよ！」



「年齢が若いこと」と「精神的に若いこと」はどう違うのでしょうか？

この本では自分の年齢に逆らうのではなく、自分の年齢に合わせる方法について書かれています。ただし、これも一時的な問題です。あなたもやがて年を取るからです。ただ、あなたが年齢的に若くないからといって、あなたが若い人と同じような考え方ができないというわけではありません。あなたの探究心は宝物ですが、それをなくさないようにしましょう。

短いお話を一つ。エクアドルで若いマジシャンのグループにマジックを演じた時のことです。誰も DVD や本などを持っておらず、ましてやまともな先生もいませんでした。ある少年はサムチップを持っていましたが、誰もその使い方を教えることができませんでした。でも、想像力を制限するものは何もなかったのも、その少年は彼の指を消したり、移動させたりする手順を自分で編み出していました。私はとても驚きました。サムチップを使った新しい手順など存在しないと思っていましたが、これは完全にオリジナルな手順でした。彼はその秘密のギミックで、完全に素晴らしい現象を作り出していました。彼の考え方がとても若々しかったので、私は感銘を受けました。

あなたのような若いマジシャンと一緒に行動するだけでも私は多く気づきを得ることができます（例えばこの本を書くことで、素晴らしい人生経験になっています）。若いマジシャンから得られるものが多いのはなぜか

現在 25 歳（訳者注：本書刊行時）のアンディ・グラッドウィンはティーンエイジャーの頃からオリジナルのマジックを披露したり発表したりしてきました。あなたと同じような若い人のクリエイティブな考え方について、彼に話してもらおうと思います。



アンディ、若手マジシャンの一人として、創作のプロセスについて話していただけますか？

アンディ：これまでの人生の中で最もクリエイティブだったのは 10 代の頃です。その当時はそういう認識はありませんでしたが、若いマジシャンであることで創作に大きなメリットがありました。つまり、単に遊んでいるだけでよかったのです。私のアイデアの邪魔をするものなんて何もありません。私の考案した最も面白くてクリエイティブなマジックのいくつかは、そんな遊びの中から生まれました。

それも今では難しくなりました。それは以前に考えていたものか、手段を達成できるかどうか、構造的に安全かどうか、例えばジェイ・サンキー（訳者注：多作家として知られる）のような他の誰かがすでに発明していないかなどを、過度に気にするようになりました。こう考えてしまうのは仕方ありません。私が年を取ったからそうってしまったのです。

というと、年を取ったマジシャンにはない新しい視点を持っているからです。おそらく誰もがそういう視点を若い頃は持っているのですが、年を取るにつれて失ってしまっています。

若い人の視点や考え方には制約や限界などはありません。私も若い頃はそう思っていましたし、今でもその感覚は覚えています。ですから、私が新しい素材を扱おうとする時は必ずあなたのような若い人の気持ちになろうと心掛けています。

あなたがマジックの世界に進み、^{アンダー}子供から^{オーバー}大人に成長したとしても、心の中で遊ぶ気持ちは決して忘れないでください。

アンダー/オーバー

若いマジシャンを抱えるご両親へ

つまり、あなたのお子さんはマジシャンということですね。それはおめでとうございます。ほどなくお子さんはマジックに多くの時間を割くようになり、たくさん練習をしたり、いろいろ考えたりするようになるでしょう。それともう一つ、ご両親であるあなたにもきっと変化が訪れるはずです。自分の子供がどれくらい上手にマジックを演じられるのかということが、ご自身の仕事と同じくらい重要な関心事となっていくでしょう。

これは大きな責任を負うということでもあります。しかしながらマジックは、あなたとあなたのお子さんとの繋ぐ素敵なきっかけともなり得るでしょう。次のページからは、あなたが感じる疑問に対してお答えしますので、気持ちを楽にしていきたいと思います。リラックスしてお読みください。マジックは本当に素晴らしいアートですから。

マジックはお子さんに大切なスキルを授けてくれます。お子さんたちは良いパフォーマンスを追及する過程で本を読み、練習をし、問題を解決し、道具を組み立て、大人たちと交渉することになります。やがて公衆の面前で話すスキルを身に付け、人前でも大人たちと同じような自信を持つことができるようになるでしょう。また、演技をするようになると、まもなくお金の価値を知り、お小遣いを管理する方法や小規模な事業を運営する方法を学ぶことができます。そしてこの段階までくると、あなたのお子さんは夕食会などでもマジックを演じてくれるほどになるでしょう。自分の子供ですから、もしかしたら無料でマジックをお願いできるかもしれませんね。

私は7歳の頃からマジックに夢中になってしまいました。私の成功の大部分は、父と母から受けた惜しみない支援によるものです。父と母はそれぞれが業務を分担して受け持ち、どちらも私の成長に関して重要な役割を果たしました。両親から非協力的な扱いを受けている子供を見ると、私はとても心が痛みます。中にはマジックを時間の無駄だとまで言い切ってしまう大人もいます。また、好きでもないマジックを親から押し付けられている子供を見ても同じように気持ちになります。これは子供に野球だけを強要することと全く同じです。子供は一人ひとり違います。ですので、親として見守るべきところと協力すべきところ、そしてきちんと管理すべきところのバランスを見いださなければなりません。

ご両親であるあなたが本書のこの部分を読んでいるということは、お子さんが前半の「アンダー」のほうを読んだということでしょう。



後半のパートはご両親であるあなたにお送りします。子供がマジックに興味を持つような支援のあり方について、私はできる限りの情報をあなたに提供したいと考えています。基本的に若いマジシャンを抱えるご両親には、それぞれ5つの役割があります。

- 1、出資者
- 2、プロデューサー
- 3、マネージャー
- 4、エージェント
- 5、運転手

それぞれの役割をどのように演じればよいかを一緒に考えていきましょう。それでは始めます。

ジョシュア・ジェイ
ニューヨークにて
2008年9月

マジックの良さは一体どこにあるのでしょうか？

子供にぴったりの娯楽はマジック以外にないとは思っています。もちろんそれは偏った考え方かもしれません。私もティーボール、ピアノレッスン、水泳、ボーイスカウト、青年会といった活動に形だけですが参加したことがあります。確かにそれはそれで楽しかったのですが、マジックと同じように継続できたものではありません。私にとってのマジックは、とても貴重な人生のレッスンになっています。以下に大きなポイントを挙げてみましょう。

マジックは自信を高めてくれます。マジックのトリックはまさにプロジェクトのようなもので、それぞれに学習、練習、洗練、そして最後に観客の目の前で演じるというプロセスがあります。このプロセスはあっという間に終わってしまいがちですが、一度でも体験すると本物の達成感を味わえます。公衆の面前で話すこととプロジェクトをやり抜くことの両方において、自信を高めることができます。

マジックは公衆の面前で話すことの練習になります。公衆の面前で話すことは一般の人が最も恐れていることです。そうするくらいなら、溺れたり、寝ている間に殺されてしまったりしたほうがマシだという人も多いのではないのでしょうか。カッパーフィールドのようなマジシャンになっても、また弁護士や教師などの職業を志したとしても、人前で話ができなければ仕事になりません。マジックとはそれ自体が人前で話すことであり、舞台の上では即興で振る舞うことであり、その場の状況に合わせることなのです。

マンハッタンのジェフ・リーボウィッツはニューヨークで最も成功した弁護士の一人です。彼はマジックをずっと愛していて、自分の職業にそのスキルを取り入れる方法を見つけました。



ジェフ：初めて陪審員の前でマジックをしたのはずっと前のことです。事件は私たちにとても不利な内容でした。そのため、負けることを恐れて、誰も事件を担当しようとしませんでした。私はまだ裁判経験の少ない弁護士でした。上司からは負けても良い経験になると言われたので、この事件を担当することになりました。私は陪審員の選任手続きにおいて、「プロフェッサーズ・ナイトメア」というローブトリックを演じました。陪審員はそれをとても気に入ってくれました。それ以降、マジシャン弁護士である私は、陪審員の関心を集めることに成功しました。結果的に裁判で勝つことができましたが、それはマジックをしたからではないと思っています。ただし、マジックが私をプラスの方向に近づけてくれたのは間違いありません。

私は民事専門の弁護士で、通常は被告側を担当することが多いです。つまり、事件の陪審員を選ぶ段において、私は二番目に話すことになります。陪審員の候補者に対して最初に話すのは原告の弁護士です。原告の弁護士はたいてい一時間くらい話します。しかもだいたい死ぬほど退屈です。ほとんどの弁護士は法律のこと以外には目を向けませんが、もっと人を楽しませなければなりません。皆さんも学校で退屈な先生に当たった経験があると思います。でも中には少なからず楽しく教えてくれた先生もいたのではないのでしょうか。人は関心が持てることに耳を傾けようとするものです。私にとってマジックは、陪審員に注目を集めるのに最も適した手段なのです。それによって私のことが同僚やクライアントの記憶に残り、私という存在を決定づけてくれるものです。

マジックは主体性が身につきます。特定の人々にとって、チームスポーツ、放課後のアクティビティ、教会のグループなどは素晴らしい趣味の場となっていることでしょう。ところが私は、それらの活動が他人との作業に重きを置きすぎているように感じられます（もしくは他者に依存しすぎているように感じられます）。それはとてもいいことではありますが、自ら進んで取り組むことがもっと重要です。この姿勢は教えて身につくようなものではありません。ところが、あなたのお子さんも舞台上のカーテンの向こう側に立てば、完全に一人きりになります。こういった状況を経験することで、ストレスをマネジメントするスキルが鍛えられるのです。私が仮にマジックが教えてくれたことを一つだけ挙げるとしたら、「他の誰かを頼らずに自分でなんとかすること」だと答えます。

マジックによって読書を好きになります。これは子供に教えようとしてもとても難しいことです。私の両親は、寝る前の一時間を読書に費やすように言っていましたが、私には無理でした。ところがマジックの本を読むこととなると話は別です。最初はマジックの秘密を本で知ることができるので興味を持ちましたが、読書のことが好きになると、読む対象は他にも広がっていきました。もしあなたが良いマジシャンになりたいのであれば、本から学んでいかななくてはなりません。

マジックによってお金に責任を持つようになります。マジックでお金を得ようになると、今度はそのお金を管理する方法を学ばなければなりません。初めのうちは大した金額ではないかもしれませんが、マジックでお金を得ることによってお金の価値を感じ、帳簿をつけるスキルが養われるでしょう。

マジックのために身だしなみを整えるようになります。これはありきたりなことのよう聞こえるかもしれませんが。私も以前はそんなことには気にも留めていませんでしたが、5年前に身だしなみの悪かった友人を見てしまい、恥ずかしくない格好について考えをあらためるようになりました。私はパフォーマーですし、クライアントに対して服装、見た目、演技をベストな状態にする責任があると思っています。

マジックによって隠れた才能を見つけ出すことができます。別にマジックに夢中になったとしても、それは必ずしもプロになることを意味するわけではありません。もちろんサーカスに入団するために大学への進学をあきらめなければならないというわけでもありません。私がよく知るマジシャンには、余暇の時間に家族や友人だけにしかマジックをしない人がたくさんいます。その反面、マジックを上手く自分の仕事に結びつける人もいます。そういう人は緊張をほぐしたり、自分を売り込んだり、陪審員をリラックスさせたりするためにマジックを使っています。私の父は歯医者なのですが、治療台で不安そうな子供をなだめるためにマジックを使っていました。マジックは新しい人と出会ったり、気持ちをはぐしたりするために使える素晴らしい才能です。

マジックにはどれくらいお金がかかるのでしょうか？

立場①：出資者

どのような事業であれ開業資金が必要です。お子さんがマジックのキャリアを積んでいこうとする場合も全く同じです。それではマジシャンになるために一体いくらかかるのでしょうか？ 780ドルを3回の分割払いで？ いやいやそんなことを言われてもどうすればいいやら分かりませんよね。

もしこれが本当だとしたら、子供にかかるお金としては高すぎますよね。でも、お子さんがバスケットボールをしたいと言ったとしたらいかがでしょうか？ バスケットボールのリングが500ドル、ボールが30ドル、エア・ジョーダンのシューズが120ドル、背番号「23」のジャージセットが50ドル、リーグへの登録料が200ドル。おそらくこれくらいの金額はかかります。スポーツ選手になるのに比べたら、マジシャンなんて大した金額はかかりません。

当然のことですが、どれくらいの金額がかかるかというのはあなたのお子さんの熱意と興味によります。しかし私の（2008年の時点での）見立てでは、780ドルという数字は適切ではないかと思っています。その場合の内訳は以下になります。

まず、50ドルは資料代です。これは本1冊とDVD1本の値段になります。おそらく最初に購入すべきなのはこういったものでしょう。子供にこれを買ってあげた後で、次の3つのことに着目してお子さんを観察してみてください。第一に、お子さんの能力とマジックに対する適性を判断しやすくなります。第二に、お子さんの情熱を推し量ることができます。つまり、マジックを学んだり練習したりしているか、それとも本やDVDが未開封のまま机に残されていないかというところを見て、本人のやる気を判断するということです。第三に、お子さんがどのように物事を学んでいくのか、ご両親であるあなたが理解しやすくなります。もしかしたらお子さんは静かな部屋で、一人で本を読むことを好むかもしれません。あるいは、レクチャービデオに倣って、あなたにお手伝いをお願いしてくるかもしれません。もしかしたら個人指導でスキルを強化するしか方法がないかもしれません。50ドルもあればそういったお子さんの性格などもよく分かるでしょう。

30ドルはマジッククラブの会費に対してです。アメリカには大きなマジック団体が2つあり、それらに属していないようなマジッククラブは無数にあります。子供に最適なクラブを見つけるためにはご自身の地元でリサーチしてください。良いクラブには若手メンバーに対する専用のプログラムや奨学金などがあります。また、若い人の会費を安く設定しているクラブもあります。30ドルというのは概算であり、地域によって異なります。しかしどれだけ費用がかかろうとも、毎月の例会に参加すれば経験豊富なマジシャンの助けを借りることができますし、マジック仲間の前で演技を披露することもできます。また、ご両親であるあなたにとっても、マジシャンの子供を持つ他の親や知識のあるパフォーマーなどと意見交換できる場なのです。

500ドルはマジックショーに対してです。マジックショーでお金を稼ぐようになるためには、ショーを作らなければなりません。ショーに必要なものを最初から全て買い揃えることはできませんが、子供向けの25分間くらいのショーであれば500ドルくらいなら妥当な金額でしょう。金属や塗装木材で作られた道具は大きくて高価です。マジック用のテーブルやスタンドだけではなく、小道具を入れるトランクも必要になります。観客の目に触れることはない小道具や仕掛けなどもたくさんあります。観客には見せることのないものですが、やはりそれなりの値段のするものばかりです。安価な道具に見えるかもしれませんが、決してそんなことはありません。例えば「アピアリング・ケーン」というコイル状のプラスチックがあるのですが、1個で60ドルします（私も最初は3個も買いました）。お子さんにトリックを買ってあげるのは、持っているトリックをマスターしてからで構いません。ただし、初めてのショーに必要な道具を揃えて一つのショーを作り上げるには、それなりの出費が必要となることでしょう。

150ドルは衣装に対してです。詳しくは19ページの服装の章をご参照ください。ショーを週1回行っている子もいれば、今度のショーが初めてだという子もいるでしょう。いずれにせよ衣装は必要です。衣装はフォーマルなものにすべきですが、親せきの結婚式に着せていったスーツよりも派手なものにしてください。

50ドルはプロモーション資料を作成するためのものです。名刺、光沢のある写真、カーボン紙で複写する契約書など、若手マジシャンにはこれらが役に立ちます。DTPソフトとプリンターがあれば自宅でも作ることができますが、写真を撮影したり、予備を何部も印刷して保管したりすると高くなります。

これで以上でしょうか。いえいえ、まだお金はかかります。ただし、一度に全てを揃える必要はありません（また、そうすべきではありません）。お子さんに本を買ってあげたらどのような反応をするか観察してみてください。ちょっとしたショーをするのに必要な道具を購入し、マジックが本人に合っているかを観察し、それから他の物を買うようにしても決して遅くはありません。

うちの子が上手くなるためにはどのように支援したらいいのでしょうか？

立場②：プロデューサー

子供にとっての初めて接する観客はあなたであり、それはとても重要な存在です。この役回りは子供に理解を示しながらも正直に伝えるべきなのかという点で微妙なバランスを要します。ですので、決して人がうらやむような立場ではありません。初めて何かを試そうとする子供にはとにかく励ますことが必要です。一方で、過度に褒めちぎることはその子のためになりません（その子だけではなく、最終的には観客のためにもならないでしょう）。

この点において、私の父はとても上手に接してくれました。父より「それは駄目だ」「それは気に入らない」「何をしたのか分かったよ」などと言われたことは、今まで一度もありません。その代わりに「このパートを練習してみよう」「他にもっといい方法があると思う」「もう一度やってみよう。今度は指を閉じてみて」などとよくアドバイスされました。

立派な両親というものは、子供のレパートリーの欠点を改善することができます。もしかしたら演技の途中で何かを落としたり、タネが見えたりしてしまうこともあるかもしれません。でも自分の子供なら、このくらいのほうがかわいらしく感じてしまうこともあるでしょう。

決してこのような思考に陥ることがないようにしてください。単刀直入に言えば、あなたは子供にとって最も批判的な観客でなければなりません。うっかりタネを明かしてしまっている動き、バレバレのギミックや見えているインビジブルスレッドなどは、お子さんにしっかり教えてあげてください。指摘したことを改善することができれば、必ずや他の人も喜ばせることができるようになります。

どうしたらうちの子にショーの依頼がくるようになるのでしょうか？

立場③：マネージャー

あなたは何もマーケティングの学位を持っている必要はありません。ただ、お子さんはマーケティングについてあなたがよく知っていると思うでしょうし、その期待に応えられるようであればなりません。マジックをマーケティングすることは、マジックを演じることと同じく学んで身につくスキルです。現時点では、マジックを演じるのはあなたのお子さんに任せましょう。あなたが担当すべきなのは、マジックをマーケティングすることです。

まずは、あなたのお子さんがどんなマジックに興味を持っているのかを見極めましょう。あなたのお子さんが子供向けのマジシャンになりたいのであれば、このターゲット層にアプローチするのです。小学校、学童保育所、幼児教室などを訪れ、イベントでエンターテインメントを提供できないか聞いてみたり、プロモーション素材を見せたりします。周りの友達に電話して、次のパーティーでエンターテインメントがほしくないかと尋ねてみます。そしてチャリティーイベント、教会やボーイスカウトの集まり、地域のお祭りなどに目を光らせておきます。

あなたのお子さんが演技を継続的に成功させることは、決してあなたの責任ではありません。良いマジックをすれば必ず次に繋がります。ただ、ショーというものは、マジックのように何も無いところから生み出すことができるわけではありません。あなたが裏で仕事をするのです。それもマジックのように。

どんな人をエージェントにしたらいいのでしょうか？

立場④：エージェント

あなたがなればいいのです。あなたがエージェントとなることで、お子さんはより公平で高い金額を手にすることができるでしょう。マジックを仕事として依頼されるようになると、お子さんは不利な状況に置かれるかもしれません。お金を扱ったこともなく、交渉をした経験もないので、料金をいくら請求したらいいのかも分からないはずです。車を運転した経験もないので、目的地への行き方をメモすることもできないでしょう。ショーを成し遂げたこともないので、クライアントに何を確認すればいいのかも分からないかもしれません。だからあなたが手伝ってあげればいいのです。あなたがお子さんの代わりに電話に出てあげてください。

世の大人たちが若いマジシャンを欺くことなんて簡単です。赤ちゃんからキャンディーを取り上げるのと同じくらいでしょう。あなたは自分の子供の代理人として、クライアントと冷静に話をし、公正な取引が確実に行われるようにしなければなりません。仮に道徳的な人であったとしても、お金の話になると子供ときちんと向き合うことができない大人が出てくるものです。14歳の子供が3桁の金額（訳者注：100ドル≒約1万円）を対価として提示すると、すぐに値下げ交渉してくる大人が必ず出てきます。

去年のエンターテイナーに比べて半分くらいの年齢なので、費用も半分くらいでいいのではないかとってくるのです。子供の演技はアマチュアと同じだと考えて、値段もこれと同等であるべきではないかと言う人もいます。あなたのお子さんのために演技する場をわざわざ与えてやっているのだという人さえも世の中にはいるのです。

もしあなたがエージェントになれば、クライアントが値切ってくる可能性ははるかに低くなります。つまり、予約を確定させる役割を担うべきなのはあなたです。時には電話口で一緒に仕事をすることもできます。ショーに関してクライアントと打ち合わせするのは子供で、その話が終わったら電話を父親や母親に代わり、料金の話をすればいいでしょう。

私の父はかつて素晴らしいシステムを考案してくれました。自宅の電話機の横に、複写式の契約書を用意してくれたのです。父が不在時は何を尋ね、何を言えばいいのかというマニュアルを作ってくれました。誰が電話を受けたり、ショーの予約を受けたりしても、場所・金額・人数などといった基本を押さえた契約書（3枚複写）をその場で作るができるというものです。

ショーの送り迎えはどうすればいいのでしょうか？

立場⑤：運転手

リムジンで送迎する必要はありませんし、お抱えの運転手のように常にきちんとしていなければならないわけではありません。ただし、時間的な余裕と辛抱強さが求められます。ロサンゼルスやラスベガスのようなエリアでなければ、マジシャンという存在が不足している可能性が高いです。そのため現役のプロマジシャンは、週末ともなると常に忙しく仕事をしています。時には町の外れでのショーをすることもあるでしょう。また、高額ギャラを目当てに、いつもより遠くへ行くこともあるかもしれません。お子さんが仕事を受ける前に、あなたや他に信頼できる誰かがその場所まで連れて行くことができるかどうかを確認しておかなければなりません。

ガソリン代のことも考慮しなければなりません。あるクリスマスシーズンのことですが、私は12月に20回もショーを行いました。たくさんのショーをするということは、それだけたくさん車で移動したということです。私は父と、次のクリスマスシーズンからガソリン代を支払うことを約束しました。クリーブランドでの仕事が入れば、車で2時間も移動しなければなりません。私たちは両親のどちらかが仕事を半日休みにすることで、この問題に対処することにしました。また、私はタンクの半分までガソリンを入れる費用を追加で支払うと両親に約束しました。

自分の子供がマジックショーに出演するのを見るのは、初めのうちは楽しいものです。しかしそれが頻繁に繰り返されると飽きてしまいます。父と母は交代で私をショーに連れて行ってくれました。土曜日にショーの仕事が2つ入れば、それぞれ別々に運転して連れて行ってくれました。私が大学に入学した後のことですが、両親は私をショーに連れて行っていた時間が懐かしいなどと言っています。

マジックショーの代金として、いくら請求したらよいのでしょうか？

私はここで可能な限り現実的な金額を提示しようと思いましたが、金額設定は複雑で一例を挙げるのが難しいです。ショーの値段というものは次の4つの要素から決まります。

- 1、ショーの種類
- 2、観客の人数
- 3、移動時間
- 4、競争相手の料金との比較

1、ショーの種類

まずは、どんなマジックを演じるのかを決めましょう。週に一度、レストランで短いショーをするだけなら、教会での晩餐会や学校での集会で演じるときほどお金にはなりません。子供向けのパーティーに比べて、企業のパーティーのほうがお金にはなるでしょう。

2、観客の人数

観客が多いほど費用がかかりますし、金額も高くなります。体育館に集まった子供にショーをするよりも、リビングルームに集まった子供にショーをするほうが必要な道具は小さくて済みます。大きなショーを行なうには入念な準備が必要ですし、時にはマイクが必要になることもあります。あなたのショーが1時間であったとしても、大きなショーなら前日の夜から準備しなくてはならないかもしれません。料金にもこれを反映させましょう。

3、移動時間

他の仕事と同様、マジックショーの値段とは、あなたのお子さんが演技をする時間に応じて計算されます。ご近所さんの誕生日パーティーで20分くらいのショーを行うだけなら、準備と片付けの時間を入れても1時間もかかりません。ところが、片道2時間かかる場所で40分のショーを行う場合は、6時間も拘束されることになります。その日は他のショーの予約を受け付けられなくなるでしょう。私は学校行事の場合、誕生日パーティーに比べて3倍の値段を付けています。なぜなら土曜日にホールに集まった子供たちに大きなショーを行おうとする間に、小さなショーを3回も行うことができるからです。

4、競争相手の料金との比較

プロのマジシャンになって3年も経つと、私はオハイオ州のカントンで最も忙しいパフォーマーとなりました。私はその地方でプロとして活躍する方に呼ばれ、立ち話をしながら、ちょっとしたアドバイスを受けました。

それ以来、彼が他の新人マジシャンと立ち話を^{チャット}するのをたびたび見かけるようになりました。それは誰にでも簡単にできることではありません。要するにアドバイスの内容はお金に関することでした。本来なら他のマジシャンがいくらで仕事を引き受けていようと、自分には関係ないことです。でも、あなたがよろしければ、どうぞ私からのアドバイスにも耳を傾けてください。

お子さんが良いショーを提供できれば、その結果としてもっと多くの仕事を獲得できるでしょう。スージーのパーティーに参加していたジャニーが、そこで観たキッズ・マジシャンを気に入ったとします。ジャニーは何がなんでもそのマジシャンを呼びたいと考えました。ジャニーには弟が2人いて、彼らもそのマジシャンに会いたがったとしたら話は早いです。プロモーションのために無償でショーを提供したものが、評判が評判を呼び、ついには仕事を断るような状態になってしまうかもしれません。

若くて忙しいマジシャンは演技をする権利がありますし、たくさん演技をする必要もあります。そんな若いマジシャンにベテランのプロの水準を期待すべきではありません。また、ショーの金額はその水準を反映したものにすべきです。結局のところ、ギャラとショーの品質は比例します。品質が上がれば、ショーの金額もそれに応じて変えていけるようになるのです。

前述の立ち話は、そのプロマジシャンが請け負う誕生日パーティーの仕事が激しく落ち込んだため、なされたものでした。彼の金額は私の3倍に設定されていました。そのためパーティーの仕事はほとんど私のところに依頼されるようになっていました。

彼は「もし君がこの仕事を続けたいのなら、これで生計を立てている人の仕事を奪ってはいけないよ」と言いました。確かにそのとおりです。あなたのお子さんにとって優先すべきなのはできるだけ多くのショーを行うことです。なぜなら経験が必要だからです。しかし、商売としてショーを行うようになったら、稼いで家族を養っているプロと競合するようになります。1回で400ドルを請求するプロマジシャンであれば、子供が50ドルのショーを月1回行ったところで脅威にはなりません。しかし、その子が50ドルで1週間に5回もショーを行うとなると話は別です。それによってプロはかなりの金額を失うことになります。

間接経費が一切かからない子供のパフォーマーは、他のパフォーマーと同じ水準の金額を請求することにより、プロの人に道を譲るようにしなければなりません。

うちの子のショーにも契約書を用意すべきでしょうか？

次のページに私が子供の頃に使っていた契約書のサンプルを添付しています。世の中には契約書を使わないマジシャンが多いのですが、若いパフォーマーにとって特に大切なことだと思います。私が子供の頃、クライアントが到底受け入れられないような要求をしてきたことが何度もあり、とても胸が痛みました。「パーティーの予算がオーバーして、見積書の金額が払えない」とか、「パーティーの進行が遅れていて、マジックの時間が取れないのでキャンセルします」などといった具合です。プロに対してこのような態度を取るような人はいません。私が未成年者でショーのギャラも安かったからでしょう。このような不幸なことが重なり、私は契約書を交わすようになりました。

契約書には最も役に立つ情報だけが記載されています。お子さんがキャリアに対して真剣に向き合うようになれば、契約書は修正しなければならないでしょう。ただ、プロになって一年目くらいの方なら、この契約書がきちんと機能するはずです。

また、契約書はショーのチェックリストとしても使用できるようになっています。金額を見積もる前に、必要な情報をリストアップされている順番で入手してください。契約書は声に出して読み上げて使用するように作られていて、それにはきちんとした目的もあります。

例えば、契約書にはクライアントに対して観客の人数を見積もってもらい、記入するようになっています。ところが、その次に最大の人数も記入するようになっています。実際のショーではクライアントが言うよりも人数が多いケースが大半でしょう。誕生日パーティーの契約書に子供が8人と書かれていたとしましょう。実際の現場では屋外のパーティーに近隣の住民や家族の大半が集まって、60人が参加していたなんてことがあります。また、クライアントがショーに50人の子供が参加すると伝えていたとしましょう。実際には100人の大人が部屋の後ろから見ているなんてこともよくあります。「最大の人数」を確認するのは、現実的な数字を常に提示してもらうためなのです。

また、移動時間も契約書に明記します。業務に必要な時間をクライアントに理解してもらったほうが、正当な金額を請求しやすいからです。時間数を明記することで、20分のショーでも場合によっては一日分の労働に値することをクライアントに理解させることができます。

契約書を作成する際はノーカーボン紙で3枚に複写するようにしてください。ノーカーボン紙はインクシートを書類の間に挟むよりもずっと簡単です。また、3枚に複写しておいたほうが記録として残しやすいでしょう。契約書を送付する際は、コピーを1枚自分の元に保管し、2枚をクライアントに送ります。両方の契約書に署名してもらい、どちらか1枚を返送してもらいます。

パフォーマンス契約書

日付：
依頼人氏名：
依頼人電話番号：

この契約書は（パフォーマーの氏名）が（ショーの形式）を（ショーの日付）の（ショーの時刻）に行うことを約束するためのものです。

ショーの長さは（ショーの長さ）で、観客はおおよそ（観客の人数）です。ただし、最大で（観客の最大数）を超過してはなりません。

開始時刻や観客の人数が大きく異なる場合は金額が変わる可能性があります。

ショーは（ショーの開催場所）にて行われます。この会場はパフォーマーの所在地から、おおよそ（移動時間）のところにあります。

ショーの費用は（ショーの費用）であり、この金額はショーが完了した時点で全額が支払われます。公演日から7日前までにキャンセルした場合は、料金の30%が発生します。会場や時間に変更があった場合はすぐにパフォーマーにお知らせください。

あなたの住所および氏名：

ショーの会場への行き方：

署名_____

両方の書面に署名し、1部を次の宛先まで送り返してください。

宛先：

以下に挙げているのはデビッド・オリバーによる契約書の案です。パフォーマーとしてのキャリアを始めたばかりであれば、このような柔らかい文面でもいいでしょう。ショーの最中、私はこの中でも、最低でも大人2人を部屋に残すように要求している箇所がいいと思います。かつて私もマジシャンとしてではなく、ベビーシッターとして雇われた経験があります。私が登場すると子供たちのご両親はすぐにいなくなってしまったのです。

この書面ならこういうことの細部を詰めることができます。お母さんとの「約束」ではありませんから、決して怖がる必要はありません。単なる「手紙」のようなものだと思ってください。しかし、あくまでこれは正式な契約書として成立します。詳細が全て明記されており、当事者の双方が署名をし、それぞれ1部ずつ保管する形になっているからです。

スミスさんへ

あなたと電話でお話することができてよかったです。
ジェイソンの誕生日パーティーでのマジックについてお問い合わせいただき、ありがとうございました。
特別なイベントに私のマジックを添えることができ、とてもうれしく思います。

私たちが電話で話した内容を確認するため、この書面を送ります。

- 1、ジェイソンのパーティーは2011年6月11日、土曜日、午後13時から始まります。
- 2、パーティーはあなたの自宅で行われます。場所はマサチューセッツ州ボストンシカモアドライブ123です。あなたの電話番号は617-000-0000で、確認したいことがある場合や移動中に何か問題が発生した場合には直接ご連絡します。
- 3、私のマジックショーは午後14時頃から始まります。私は遅くとも13時30分までにショーの準備を整えておくようにいたします。
- 4、私はショーを35分間行い、皆さんにマジックとコメディを提供します。よろしければ最後にジェイソンへの特別な手順を披露します。(自分のパーティーでは恥ずかしがる子供もいます。だから私は協力するように強いるつもりはありません。)
- 5、私たちは料金が500,000ドルであることに同意します。この料金はパーティーでのパフォーマンスの直後に、私ことマイク・スミスに対し、現金もしくは小切手で支払われます。

6、ショーの最中は子供たちを監督するため、少なくとも大人2人を部屋に配置します。

7、あなたは、自宅までの地図を私に送ることに同意します。

8、私はあなたにこの書面を2部お送りします。両方に日付と署名を入れて、私に1部を送り返してください。これは正式な契約書であり、私たちが共通の認識を持っていることを確認するためのものです。いずれかの項目（日付、時刻、場所など）に変更が発生した場合は、お互いに合意した内容を確認するために新しい書面をお送りします。

繰り返しますが、6月10日にお会いし、ジェイソンの特別な日のためにマジックができることを私も楽しみにしています！

もし何かご不明な点がございましたら、いつでもお電話ください。よろしくお願いします。

(署名) _____

マジシャン マイク・スミス

2008年12月9日

トルーディ・スミス様（日付と署名のご記入をお願いします）

うちの子にもエージェントをつけたほうがいいでしょうか？

いいえ、つけないほうがいいでしょう。世の中には取るに足らない芸能プロダクションがあふれていて、地方でパーティーなどを企画しています。そのほとんどがエージェントなどではなく、パーティープランナーと呼ぶべき存在に過ぎません。パーティープランナーはエージェントではありません。

エージェントはエンターテイメントを求めているクライアントとの間を取り持ちます。エンターテイナーの代理人として出演料を交渉するので、出演料を高くすればするほど自分にとって有利になります。なぜならエージェントの取り分も多くなるからです。

パーティープランナーは予算の範囲内でイベントを企画します。プランナーがエンターテイナーを雇う際は、出演料を低くしたほうが有利になります。予算を他のことに使えるからです。

まともなエージェントなら、17歳に満たないパフォーマーに関心を持つことなんてないでしょう。世の中には経験豊富で成人したエンターテイナーがたくさんいるからです。若いパフォーマーと関わりを持とうとする「エージェント」というのは、例外なくお金を払おうとしない人たちです。

うちの子がマジックに火を使いたいそうなのですが、認めるべきでしょうか？

これは世界中のマジックショップで議論がなされている問題です。この問いが発せられる場面はいつも同じです。つまり、本来火に近寄ることさえ許されない10歳の子供が美しい炎を見てしまい、どうしても欲しくなったような時です。その子にとってマジックは火で遊ぶための言い訳にしか過ぎません。でも、母親は火がとても危険だと考えて、「あなたは火を使わないマジックをたくさん持ってるじゃない」と言っているのです。

ファイアーマジックに関する議論は、最終的には責任の所在はどこにあるかという問題に行き着きます。決まった年齢になれば火を使うマジックが適切に扱えるということはありません。私の大学時代のルームメイトなんて、大学生の年齢であっても決して火を扱わせてはならないような人物でした（アルコールが燃えることを彼が知ったのは、なんと大学生になってからだったのです）。

もちろん観客が大勢いる場合、火を使った現象のほうがパワフルかつビジュアルで、プロらしい印象を与えるのは間違いありません。ファイアーマジックは一般人がなかなか手を出せるような代物ではないように感じられ、それだけミステリアスな素材なのです。

ファイアーマジックに関して デビッド・オリバーの思うこと

私の生徒には、火を使うマジックを18歳以上で適切な訓練を受けていない限り認めていません。私は自分の生徒に火の扱い方や事故から身を守る方法、煙感知器の種類や火災に関する法律などを教えています。



私は自分のショーに火を使うべきかどうか、そしてそれが結果にどう影響するのかということについて判断できるようになりました。リビングルームでショーをしているときにカードのファンを床に落としてしまったり、水をこぼしたり、グラスを割ってしまったりしても、それは簡単にきれいにすることができます。その一方でマッチを落としたり、ライターオイルをこぼしてしまったりすると、完全に違う結果になってしまうでしょう。これは10代の若者に限った話ではなく、誰にでも起こり得ることです。火災の事故を起こしてしまったプロマジシャンを私は大勢知っています。

ティーンエイジャーや若いパフォーマーには、ショーで火を付けた瞬間、それを観ている観客がどのように感じるのか分からないでしょう。観客は演技を引き続き観てくれているでしょうか。それとも会場から逃げ出そうとしていないでしょうか。私なら観客に身の安全を心配することなく、マジックを楽しんでいただきたいと思います。ところが、子供の立場からするとどうでしょうか。マッチやライターを使うマジシャンが格好いいと感じるのではないのでしょうか。同じ年頃の子供が火で遊んでいる様子を見てしまったら、それは両親や先生の教えを否定してしまうことになります。もしかしたらそのことが後で大きな問題になるかもしれません。

では、あなたは自分の子供が火を使うのを認めるべきなのでしょう？ 最終的にはあなた次第です。ただし、私が問われた場合には「ノー」と答えます。

私の場合は 12 歳の時、厳密に管理された状況においてのみ火を使うマジックを許されました。私はフラッシュペーパーとライターオイルを使いたかったのですが、父はそれらがショーを華やかにするものだということを知っていました。そこで父は注意すべきポイントを私に教えてくれました。さらに父は大人がそばにいない限り、これらを使ったマジックを練習してはならないというルールを定めました。幸運にも私たちは今まで事故を起こしたことはありません。

用心しておくべき危険な道具は他にもありますか？

消えたり現れたりする魔法の杖（ケーン）は素晴らしい古典的なマジックで、キャバレーのマジックショーなどでよく使われています。仕組みはいたって簡単です。長いコイルが伸びて杖の形になったり、縮まって手の中に納まったりするのです。現在は金属製とプラスチック製の 2 種類があります。90cm も離れるとその違いは分かりません。しかし、金属製のケーンで長く飛び出るものは、手のひらを怪我させてしまう恐れがあります。私が所属しているマジッククラブでは手のひらに海で鋸に突かれたような大きな傷を負った方がいます。その人曰く、ケーンを出現させるときに怪我をしたそうです。プラスチック製のほうが安価で、たいていのマジックショップで手に入れることができます。

マジックの損害を補償してくれる保険があるというのは本当でしょうか？

はい、あります。マジックの損害保険は多忙なパフォーマーにとって有益なものでしょう。私はマジックで仕事を始めた時からずっとこの保険に加入しています。まさか自分のマジックでクライアントの家を全焼させてしまう可能性はないと思っていますが、ダブ・パンの手順でケーキの材料となる卵や小麦粉などを床に落としてしまったら一体どうになってしまうだろうかと心配になります。また、女性から指輪をお借りした時も宝石が取れてしまったりしないだろうかと気になってしまいます。

単に考えすぎなのかもしれません。しかし私は安心のためにお金をかけてよかったと思っています（実際のところ、私は今までに保険金を請求したことは一度もありません）。マジックの損害保険はSAM（The Society of American Magicians）*13を通じて加入することができます。保険料は安価ですが、何百万ドルもの損害であったとしてもしっかりと補償してくれる内容になっています（たとえそれが観客の過失であっても補償してくれます）。

*13 詳しくは、「www.magicsam.com」
でご確認ください。

活動を支援してくれる業界団体はマジック界にもあるのでしょうか？

はい。マジックの大きな業界団体が2つあります。SAM (The Society of American Magicians) *14 と IBM (International Brotherhood of magicians) *15 です。これらの団体の会合は世界中のあらゆる場所で開催されています。ですから、まずはあなたの住む場所で行われている会合を見つけ、そこに参加してみたいかがでしょうか。

どちらの団体にも若者向けのプログラムがあります。どちらも長い歴史とノウハウの積み重ねがあります。ただし、どちらを選んだとしても、マジックを究めるためには厳しい道のりを歩んで行かなくてはならないことに変わりはありません。若者向けの出版物やイベントは完全に初心者向けの内容になっていると思います。もしあなたのお子さんがマジックに対して真剣なのだとしたら、これらのプログラムではレベルが合わないと感じることでしょう。イギリス在住の方には「ヤング・マジシャンズ・クラブ*16」があります。これは「マジック・サークル」の若者向けプログラムです。

これらの団体に所属することで得られるメリットとは、お子さんが他のローカルマジシャンたちと直接交流を持つことができることです。人から直接教えてもらうことは何にも代えがたいことでありますし、月に一度は自分で演技を披露したり、他のマジシャンの演技を観たりすることができます。また、地方のマジッククラブでは、レクチャーやパーティー、チャリティーイベントなどを提供しています。マジッククラブはショービジネスの関係者と良好なコネクションがあるので、仕事上の幅広いネットワークを得られる可能性があります。もしあなたのお子さんがマジックに真剣なのだとしたら、地元のクラブで交流を持つほうがいいでしょう。

*14 入会に関する詳細は、「www.magicsam.com」でご確認ください。

*15 入会に関する詳細は、「www.magician.org」でご確認ください。

*16 入会に関する詳細は、「www.themagiccircle.co.uk」でご確認ください。



うちの子がマジックコンベンションに参加したがつているのですが、そのために学校を休ませてもいいでしょうか？

それはあなたの判断にお任せします。ちなみに私の両親は授業を欠席することを許してくれました。私はマジックに真剣に取り組んでいましたが、成績も良かったのです。他の子供たちも各々の事情で学校を休んでいました（スポーツのトーナメントや家族旅行などといった事情です）。マジックコンベンションという理由も特に問題ないと思います。

マジックコンベンションはマジックのいわば実践的なセミナーです。あなたのお子さんはそこでマジックを見て学ぶことができます。他の参加者と賞を争ったり、商品を買ったりすることもできます。またコンベンションは親睦会でもあり、そこではきっと友達を作ることできるでしょうし、貴重な実践的な指導を受けることができます。お子さんが18歳に達していない年齢なら一緒にコンベンションに参加するようにしてください。14歳未満であれば全てのイベントに付き添うようにしましょう。もし女の子なら十分にお気を付けください。マジックコンベンションは男の人だらけです。カードマジックのできるとてもいい人たちではありますが、それでもやはり男性ですので注意してください。

たいていのコンベンションはマジシャンではない配偶者に対する割引が設定されています。その他にも若者に対する割引も用意されることもあります。詳しくは、地元のコンベンションでご確認ください。

特に初めて参加するマジックコンベンションというものは、マジシャンにとってかけがえのない思い出となるでしょう。私も若い時、母と一緒にラスベガスのコンベンションに参加しました。その旅行の全てが私にとって大きな冒険でありましたが、素晴らしい母との思い出にもなっています。

うちの子はマジックキャンプを気に入るでしょうか？

おそらく気に入ってくれるでしょう。マジックキャンプではみんなでマジックを練習し、演じます。同じように生活をし、同じ空気を吸いながら、マジックと一緒に味わうのです。アメリカ各地でこうしたマジックキャンプが開催されていますが、評判のよいものが2つあります。どちらのキャンプも期間が1週間で、毎年夏に開催されています。

ご両親にとって小さな子供たちだけを別の州に送り出すのは不安があるでしょう。ましてや飛行機に乗せなければならないとしたらなおさらです。そのような気持ちになるのは当然ですので、参加を決める前に必ずキャンプの主催者と話をしてみてください。主催者は空港でのピックアップ、安全、食事、医学的な制限に関する情報を提供してくれるでしょう。私はどちらのキャンプの主催者もよく知っています。どちらも詳しく説明してくれるはずです。以下に連絡先を記載します。

タネンのマジックキャンプ

私が若い頃にはマジックキャンプはたった一つしかありませんでした。それがタネンのマジックキャンプです。私は夏休みのマジックキャンプに2期連続して参加しました。自分のマジックを発展させる上で、その2週間に大きな影響を受けたと思っています。現時点でこのキャンプは35年目を迎えます。タネンの授業では有能なインストラクターが専門的な内容を教えています。

キャンプはフィラデルフィア郊外の美しい大学のキャンパスで行われます。入寮するスタイルで寝る時間も決まっています。食べ物はカフェテリアで提供され、授業は実際の教室で行われます。

キャンプの参加者は各自の能力（初級、中級、上級）に分かれて授業を受けます。午後はカード、ステージ・マニピュレーション、リンキングリング、バルーンなどの科目を選択し、それぞれを受講することができます。毎晩のようにショーが行われ、ステージとクローズアップのコンテストも開催され、入賞者は表彰されます。

ニューヨーク市に近い場所で開催されているため、指導員や先生はショービジネス界で最も人気のプロマジシャンで構成されています。デビッド・ブレインは子供の頃に自ら参加していますし、デビッド・カッパーフィールドは数年前、お忍びでこのキャンプに姿を現しました。

タネンの授業はとても活気があって、1週間のほとんどを屋内で過ごすことになります。このキャンプの料金は1,095ドルです（2008年の価格）*17。

*17 詳しくは、「www.tannens.com」をご覧ください。ご不明な点があれば、キャンプの責任者であるテリーとデニスのクック夫妻までお問い合わせください。

ソーサラーズ・サマーサファリ

キャンプをしながらマジックの練習をする様子を思い浮かべてください。それがまさしくソーサラーズ・サマーサファリです。このキャンプは1996年から始まりました。私が参加することができる年齢になってからずっと後のことです。ところが、私は過去にメインゲストとして招かれました。それから数年に渡って何度か出演しています。私はこのキャンプにとっても良い印象を持っています。

このキャンプはキャンプ・ホワイト・パインズで行われています。これはカナダのトロントから2時間半ほど北に行ったところ（アイバン・ライトマン初監督作品の『ミートボール』が撮影された場所です）。会場は実際のキャンプ場であり、森林、キャビン、プレイベート・レイクを備えていて、景色はとても綺麗です。

このキャンプは昔ながらの感じがするでしょう。ソーサラーズ・サマーサファリの参加者はマジックの授業、選択科目、個別指導、ショーなどに加え、ハイキング、バレーボール、バスケットボール、トランポリンなどで遊べる時間があります。

このキャンプの指導員は特に子供への指導を得意としており、初心者と上級者のどちらにも対応できる素晴らしい先生ばかりです。

このキャンプの参加者に対する指導員の比率が適切で、参加者の多くが「指導員のトレーニングプログラム」を修了して、翌年以降にスタッフとして戻っ

ソーサラーズ・サマーサファリのマイク・シーガルについて

マイク・シーガルはソーサラーズ・サマーサファリを主催し、数多くの若手マジシャンを指導してきました。彼はトロント地区で人気のプロマジシャンでもあります。また、彼はこのマジックキャンプを際立たせるのに最適な人物でした。

マジックコンベンションではなくマジックキャンプとして、一体何を提供しているのでしょうか？

マイク：ソーサラーズ・サマーサファリが始まった時、他のイベントとの違いを何にすべきなのか正直なところよく分かりませんでした。10年経って、ようやく他のイベントにはない独自のポイントに気付くことができました。



キャンプ体験の大部分は相互に交流することです。指導員やマジックの講師はショーをするためだけに雇われたものではありません。それ以外の時間も子供たちと同じ部屋で過ごします。キャンプは親睦の場であり、参加者には本やDVDで知ったマジシャンと一緒に食事をし、集まって議論をし、演技をするチャンスが与えられます。食事、キャビンでの活動、水泳などは全てキャンプの一環として、みんなで一斉に行います。キャンプの参加者は消極的になってはいけません。私たちは一丸となり、参加者とスタッフが共に協力して運営するのです。

キャンプはコンベンションよりも長時間になるので、子供と指導員との間に緊密な絆を築くことができます。生涯にわたる繋がりが生まれ、キャンプが終わった後も参加者同士に芽生えた友情が続いていることに、私たちはとてもうれしく思います。

また、言うまでもありませんが、キャンプはマジックを集中的にトレーニングする場でもあります。私たちは皆、次世代のマジシャンたちがマジックの素晴らしさを理解し、また同時に彼らが芸術としてのマジックのレベルを高めていくことができるように、ともに活動しています。

てきます。1 週間を通じて、それぞれの参加者は個人的な指導と助言を絶えず受けることができます。ここの選択科目は具体的な演目に分かれています。「ゾンビボール」や「リンキングリング」などというように、個別のトリックに関するワークショップを提供しているのです（ちなみに私は「アンビシャスカード」を担当しました）。ソーサラーズ・サマーサファリに来てくれるスターの存在も絶大です。去年はマジック界でも有名なマジシャン 2 人が参加してくれました。

コミュニティ意識も強いのもこのキャンプの特徴です。創立者であるマイクとジェニファーのシーガル夫妻は、参加者が春休みに再会するように促しています。シーガル夫妻は通年で写真や更新情報を送るメーリングリストも運営しています。

このキャンプの料金は 850 ドルです（訳者注：本書刊行時の価格）*18。

*18 詳しくは、「www.sorcerers-safari.com」のサイトをご覧ください。創立者のシーガル夫妻まで電話でお問い合わせください（訳者注：原作ではこの通り案内されているが、公式のフェイスブックアカウントによると、2017 年にキャンプが終了した旨の告知がなされている）。

ご両親の関与に関してデビッド・オリバーの思うこと

多くの若手マジシャンのメンターであるデビッドに対し、両親が自分の子のマジックに関して、どの程度まで支援すべきなのかということを尋ねてみました。

ほとんどの親は自分の子供に手を差し伸べたいと思っているはずです。しかし時には一步退いて、自分の経験、成功や失敗、もしくは他の誰かから学習させるようにしたほうがいいでしょう。私から端的にアドバイスするとしたら、日常生活に関することはその場で助けてあげてください。でも、マジックのことなら、（たとえばあなたに演技の経験があったとしても）何歩か下がって見守ってあげていただきたいと思います。

お子さんがマジックを始めたばかりの頃なら、あなたが初めての観客になるはずです。それはとても素晴らしいことだと思います。お子さんはあなたにマジックを見せることができるようになり、あなたに認めてもらったり、あなたを驚かせて唖然とした表情にさせたりすることに、きっとワクワクすることでしょう。ただ、やがてマジックのアドバイスをあなたに求めることすらなくなるかもしれません。しかし、これは決してあなたが悪い親だということではありません。私も、自分の子供が料理に興味を持っていたら、自分の下手な料理の腕前を超えるまで成長してほしいと願うのは当然です。

つまり、自分の子供を支援したいと考えているのなら、マジックについて自分よりも詳しい人を見つけてくればいいのです。しっかりと探しさえすれば、たいていの街でマジックのクラブやレッスンを利用することができます。地元のマジックショップで聞いてみてください。または、ショーが終わった後のパフォーマーに近づき、自分の子供に後日レッスンやアドバイスをしてもらえないかと尋ねてみるのもいいでしょう。最初の数回のレッスンには同席して、マジックのテクニックを理解したり、先生のスタイルを学んだりしてみましょう。満足するまで質問するほうがいいと思います。そうした後は、後ろに下がって進行を見守ってください。

あなたは親として、自分の子供が購入する道具、装置、本などについて知りたいと思うのは当然です。なぜならそれらの代金を支払う立場だからです。あなたがそのマジックの方法や「秘密」を知ろうとしない限り、それは全く問題にはなりません。お子さんはあなたを楽しませたり、あなたから認めてもらったりするためにマジックの秘密を守ろうとしましょう。もちろんマジックショップの販売員には、マジックが安全で適切かどうか、購入する前に何でも尋ねてください。自宅に帰った後は、あなたのお子さんが自分で秘密を理解するようにしてあげてください。

幼い子供を持つご家族には、支援するのを父親か母親のどちらかに限定してしまうことをお勧めしています。そうすると、一方の親はトリックや現象の「秘密を厳守すること」を誓うことで、大人の観点からアドバイスを提供することができます。他方の親は観客席に座り、万事問題ないかを把握しながら演技を楽しむことができます。



そして、お子さんが家族や友達、学校や団体などに向けてショーをするようになったら、一歩下がって見守ってあげてください。つまり運転する役に回り、荷物を運ぶのを手伝ってあげてください。ただし、あくまであなたのお子さんがマジシャンです。クライアントに会わせ、話をさせて、ショーの道具・テーブル・機材などは自分で準備させましょう。当然失敗することもあるでしょう。でももっと大切なのは、失敗が許される間に失敗から学ぶことなのです。ショーの度にあなたが機材を準備し、支援のつもりであなたがクライアントと話をし、全てにおいて子供を守ろうとするなら、最終的にはいつか失敗してしまうでしょう。それはあなたの仕事ではありません。

私はかつて10歳の生徒を受け持っていました。父親が全てのショーに同行し、その子の代わりに電話をかけていました。テーブルをセットし、シルクを折り、道具を仕込んでいました。息子がタキシードを着るのを手伝い、ショーの後には名刺を配っていました。それもその子が18歳になるまでです。私はこの習慣を破りたくて何年も努力してきました。この子が大学に入学し、1ヶ月も経たない頃にその子から電話をもらいました。初めて学校でショーを行ったそうなのですが、父親がいなかったので自分で演技のセットをする方法が分からなかったそうです。彼は父親を失望させたくなかったもので、電話で助けを求めるのが恥ずかしかったそうです。皮肉なことですが、彼が失敗する前に父親が全てを未然に防いでしまっていたのです。

最終的にあなたのお子さんは、マジックのコンベンションやショーなどでたくさんのパフォーマーやプロのステージマネージャーと一緒に演技を披露することになるかもしれません。親としてベストなのは、邪魔にならないように適度に距離を取り、助けを求められたときに応えてあげられるようにしておくことです。こういったプロの人たちは何度も、しかも何年も同じような経験をしているので、あなたの助けは邪魔になってしまうのです。否定的な言い方ですが、あなたが決して「ステージパパ・ステージママ」にはならないでください。あなたもこのように呼ばれたくないでしょう。若手パフォーマーの中には彼らの両親が扱いづらかったり、邪魔だったりしたため、イベントに呼ばれなくなる人がいます。そのような親にはならないでください。ディレクターやステージマネージャーの方に全てを任せ、あなたは質問をすることに留めて、若いマジシャンを支援してあげてください。

あなたのお子さんのマジックに最も役に立つのは、コミュニケーションスキルを授けることなのです。自分の子供に質問の仕方を教え、質問に対する答え方を教えてあげましょう。そしてアドバイスや提案を聞き入れる姿勢を教えてあげてください。それからチームとして協力する姿勢を教えてください（自分が演じる演目以外にも他の人が演技する場合には必要なことです）。こういったスキルやツールを授けたら、一歩下がってそれらの使い方を学ばせてください。きっとあなたが満足する結果に結びつくはずです。

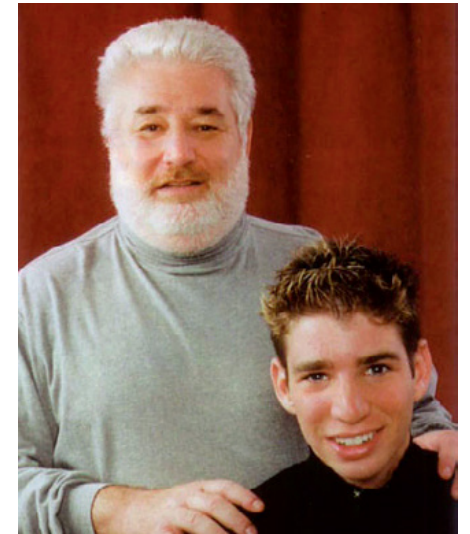
うちの子にどれくらい支援の手を差し伸べるべきでしょうか？

子供の頃の最も良い思い出といえば、私の両親とマジックが関係しています。両親は初めての大きなショーを観てくれて、私の練習を手伝ってくれました。ウサギの檻も掃除してくれました。両親は常に私の傍にいてくれて、常に私の出番を待っていてくれました。私にはサポートしてくれる両親がいて本当に幸せです。そして、あなたがこのマニュアルを読み終わりにかけているということは、あなたのお子さんが選んだ趣味について、積極的な役割を果たすおつもりなのだろうと思います。問題はあなたがどれくらい積極的であるべきか、ということです。

あなたの支援を必要とするのと同じくらい、若いマジシャンは自分だけの空間を必要とします。その当時、私たちの周りには、子供の意志に反してティーボールを習わせていた両親がいました。ピアノレッスンをさせようとしていた両親もいました。

あなたは親として支援すべきタイミングと見守るべきタイミングを知っていなければなりません。親にとって子供は気がかりな存在です。あなたは子供たちのあらゆる兆候について、それをどう解釈したらいいのか知らなければなりません。お子さんがあなたに支援を求めた場合、たいていは正当な理由があります。あなたのお子さんが新しいメンタリズムの手順を組み立てるのに上手くいかない様子であったら、手を貸してあげてください。ところが、もしお子さんがクライマックスのセットを忘れてしまった場合は、そのまま悩ませてあげてください。経験以外に糧になるものはありません。新人マジシャンはステージでの失敗から学んでいなくてはなりません。

私も思い起こしてみると、同じようなことがありました。私が困っている時にあえて助けてくれなかったことが、父には何度かあったように思います。ショーの会場に着いたところで、大切な道具を家に忘れたことに気付いたことがありました。父は車で取りに行くこともできたはずですが、「何か対策を考えようよ。あと、今後はミルクピッチャーを絶対に忘れないようにしよう」と言いました。それから今日に至るまで、私は道具のチェックリストを作って確認をすることで、忘れ物をすることはなくなりました。マジシャンであるために必要なのは臨機応変な対応ができ、創造力を発揮できることです。あなたが協力することでお子さんのこの特性を伸ばすべきであって、決して成長を阻害してはなりません。



訳者あとがき

私は本書の著者であるジョシュア・ジェイ氏の日本でのレクチャーに過去3回ほど参加している。自分の記憶を頼りに当時の情報をあたってみると、それぞれ2001年、2009年、2016年である。氏は1981年10月の生まれであるとのことなので、2001年のレクチャーでは弱冠20歳での来日であった。私は彼と同年代であるが、当時のレクチャーでも堂々としていた氏の姿は今でもよく覚えている。また、2009年のレクチャーでは完璧な技法で並み居るマジックマニアを驚かせていた。マジック歴が長い方の中には、氏のパフォーマーとしての素晴らしさを直接体験された方も多いのではないと思う。

私とこの『Under, Over』という本との出会いは、2013年にまで遡る。とあるマジックのレクチャーDVDを翻訳する仕事を請け、そのリサーチの過程において氏のマジックショップである『Vanishing Inc.』にアクセスしたのがきっかけであった。その後、スクリプト・マヌーヴァの滝沢社長に許可を取り付けてもらい、この本は2015年より訳出を始めた。マジックファンの皆さんにはリリースまで4年もお待たせしてしまい、大変申し訳なく思っている。

今回の訳出の条件として、ジョシュア・ジェイ氏より提示された条件が一つだけある。それは商売にせずに「完全にボランティアでやること」だ。その意図するところは本書の冒頭でも触れられているが、このボリュームや書かれた内容を考えても本当に素晴らしい試みだと思った。ひとえにそれは若い人のマジックに触れるきっかけとなり、より多くの人にマジックに親しんでもらおうという氏の想いからであろう。そのために私や滝沢社長も完全にボランティアで本書の翻訳版の作成に取り組むことになった。昨今、マジックをネットの動画配信サイトなどで種明かしすることが問題になっているが、無料で公開される本書がそのような議論に巻き込まれることがないように願っている。

本書は前半と後半で対象となる読者が異なるのだが、年齢のことは気にせず、それぞれの立場で全体に目を通していただきたい。そもそも日本はアメリカとは違い、若者がマジックの世界に足を踏み入れるまでの入り口が少ない。ましてマジックを人前で演じる場は非常に限られているし、その水準に到達できるマジシャンも一握りではないと思う。これだけインターネットが発達した世の中であって、どこでマジックの情報を得られるのか、どこでマジックに直接触れることができるのかといったことは、マジックを知らない人にとって非常に分かりづらいものである。本書の舞台はアメリカであるため、そういったニーズを直接満たすことはできないかもしれないが、若い人にとって、マジックという素晴らしい世界の理解を深めていくためのきっかけになればと思っている。

この本は大半がジョシュア・ジェイ氏の私的な経験に基づいて書かれている。本書を読んだ方はレクチャービデオなり、ライブ映像なりで、彼のパフォーマンスを実際に観ていただきたい。そうすればこの本の内容が決して机上の空論などではなく、小さい頃からプロとして活躍されてきた彼の知見が凝縮されていることも十分理解していただけるだろう。

本書により、マジックファンを一人でも増やすことができれば、私にとっても幸いだ。

2019年6月

米津 健一

Under, Over
by Joshua Jay

アンダー／オーバー

ジョシュア・ジェイ 著
米津健一 訳

2019 年 6 月 初版発行

発行者 滝沢敦
電子書籍版制作 スクリプト・マヌーヴァ
<http://www.script-m.jp/>
発行所 株式会社リアライズ・ユア・マジック
大阪府和泉市王子町 3-12-12
電話 0725-90-7660
info@script-m.jp